

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月
山形大学

目 次

資料 1-1-1	山形大学教養教育実施会議規程	1
資料 1-1-2	新たな教養教育（基盤教育）	1
【不開示】資料 1-2-1	入学者選抜に関する外部評価	2
資料 1-3-1	一般教育科目として開講する専門科目	4
【不開示】資料 1-4-1	卒業研究に関する発表会	4
資料 1-5-1	県内の高等教育機関との単位互換	5
資料 1-5-2	海外の高等教育機関との単位互換	7
資料 1-6-1	理工学研究科博士後期課程シラバス	8
【不開示】資料 1-7-1	教員の個人評価	9
資料 1-7-2	教員の選考に関する規程	12
資料 1-8-1	教育の質の改善に関する成果報告書	13
資料 1-9-1	サークル棟の新設	14
資料 1-10-1	課外活動の活性化	15
資料 2-1-1	Y U - C O E（山形大学先進的研究拠点）	16
資料 2-1-2	山形大学 Y U - C O E 推進本部規程	17
資料 2-2-1	組織評価	18
資料 2-3-1	学位論文要旨・科学研究費補助金報告書	21
資料 2-4-1	テニユア・トラック推進特区	22
資料 2-5-1	機器分析センターにおける共同利用機器一覧	24
資料 2-6-1	研究成果の公開	25
資料 2-7-1	1 学部・部門 1 プロジェクト	26
資料 3-1-1	高大連携等の充実に向けた取組	27
資料 3-2-1	地域共同研究センターにおける取組	28
資料 3-3-1	国際シンポジウム	29
資料 3-4-1	学術交流協定一覧	29
資料 3-5-1	海外拠点の設置	29

資料１－１－１ 山形大学教養教育実施会議規程

(略)

(連絡会)

第8条 実施会議は、別表の授業区分ごとに教養教育の企画、調整等のため、連絡会を置く。

2 連絡会に関し必要な事項は、議長が実施会議に諮って定める。

(領域等別授業担当教員会議)

第9条 前条第1項に規定する連絡会の下に領域等別授業担当教員会議（以下「授業担当教員会議」という。）を置く。

2 各授業担当教員会議の委員は、当該年度の各連絡会連絡員及び当該連絡会において授業担当教員の中から選出された者で構成する。

3 授業担当教員会議は次の事項を審議する。

(1) 当該領域等の教育目標・教育内容の点検・見直し

(2) 当該領域等のカリキュラム（授業科目の構成等）の点検・見直し

(3) 当該領域等の授業の実施状況の点検・評価

4 授業担当教員会議は連絡会の座長が招集し、その議長となる。

(略)

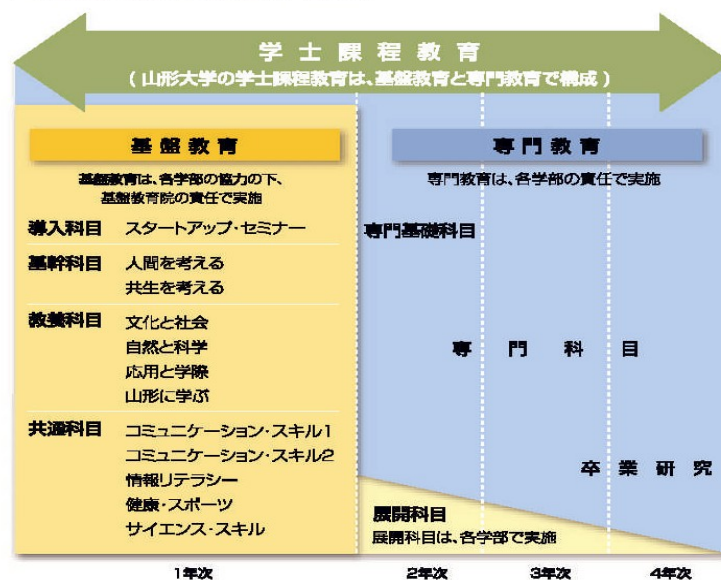
附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

(出典：事務局資料)

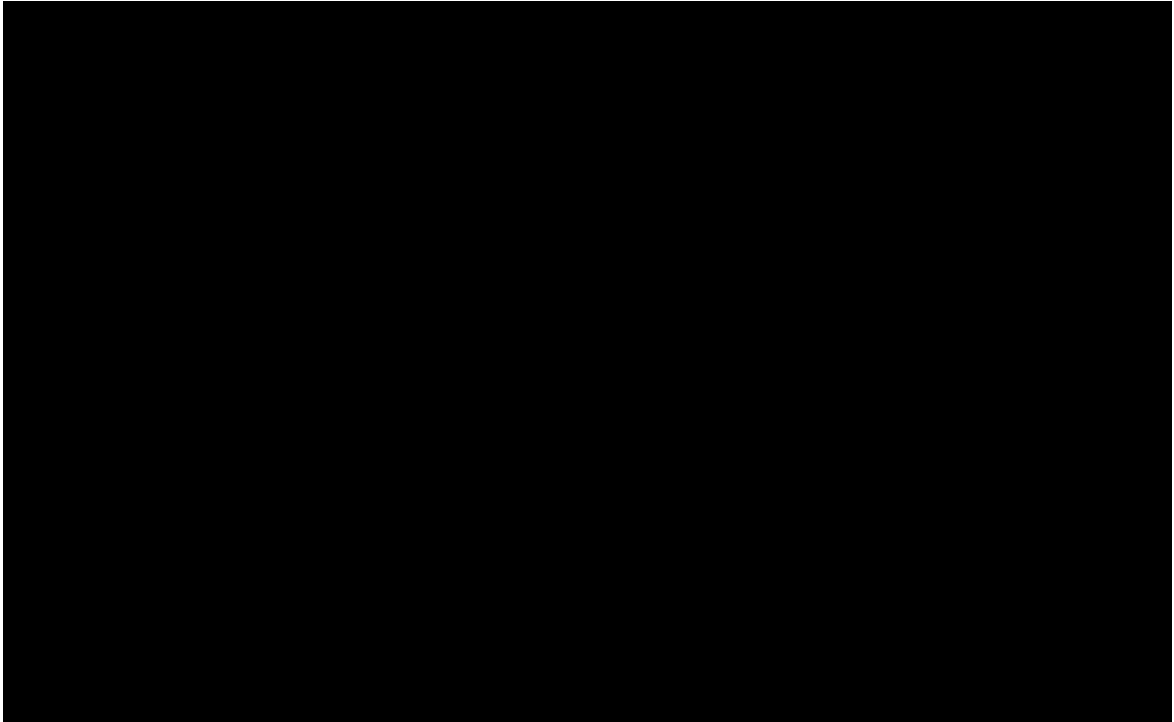
資料１－１－２ 新たな教養教育（基盤教育）

■山形大学の学士課程教育 概要図

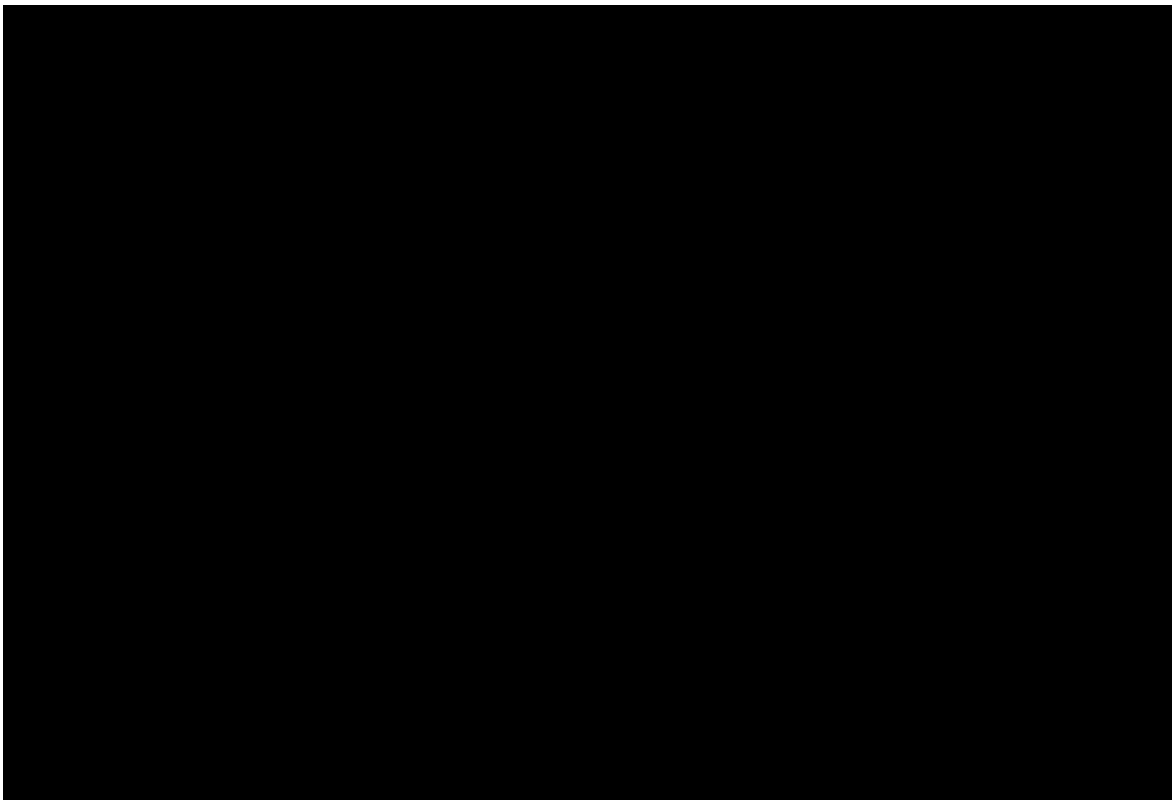


(出典：結城プラン 2010)

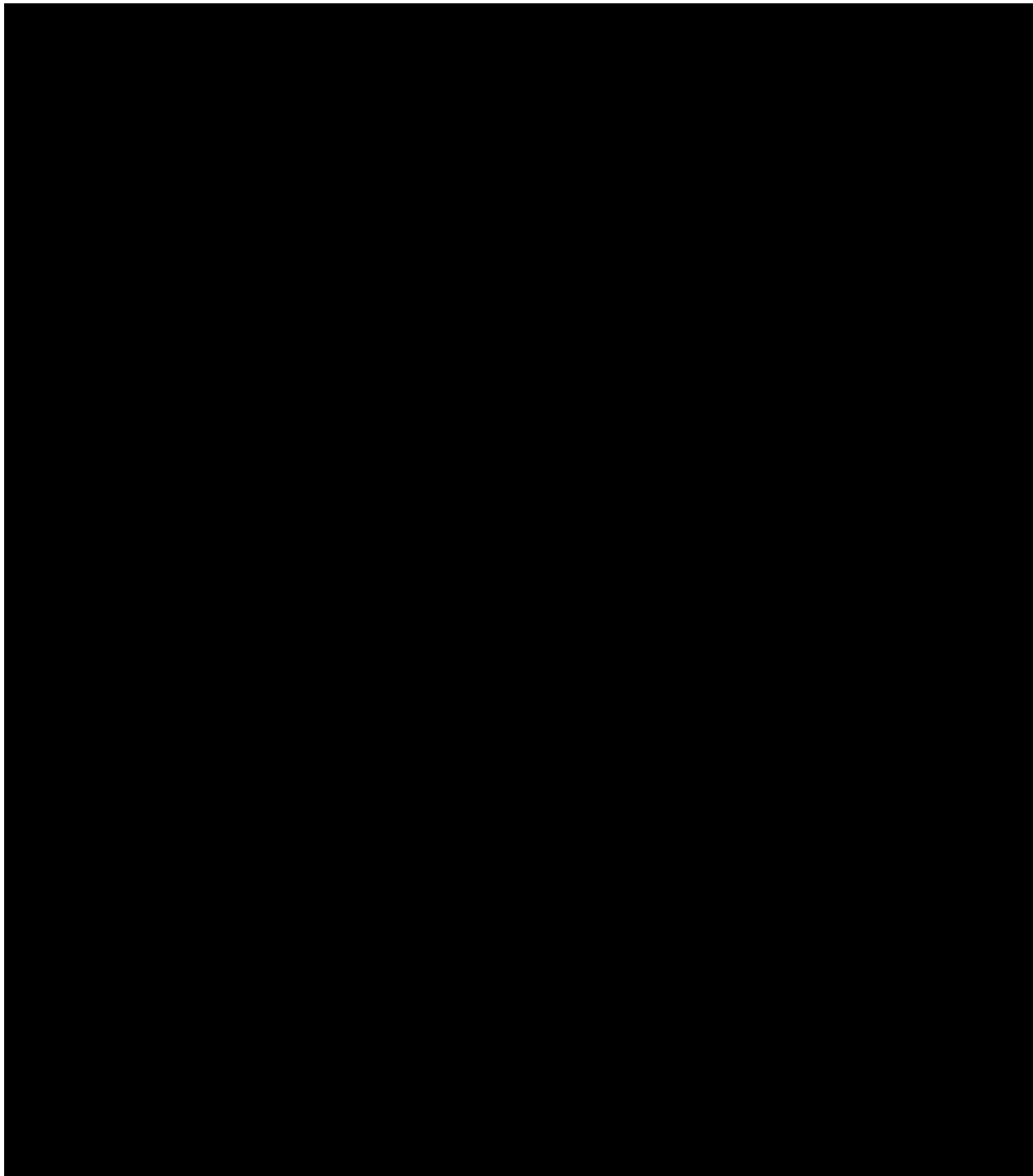
資料 1－2－1 入学者選抜に関する外部評価



(出典：事務局資料)



(出典：事務局資料)



(出典：事務局資料)

資料 1-3-1 一般教育科目として開講する専門科目

(平成20年度)

科目名	開講学部
芸術文化基礎	人文学部
人間文化入門総合講義	人文学部
日本外交論（前期）	人文学部
地域経済論	人文学部
日本外交論（後期）	人文学部
発達史地形学	地域教育文化学部
個体群生態学	理学部
生物環境学概論	農学部
生物資源学概論	農学部
生物生産学概論	農学部
文化地理学	農学部

(平成21年度)

科目名	開講学部
民俗文化講義	人文学部
人間文化入門総合講義	人文学部
日本外交論（前期）	人文学部
日本外交論（後期）	人文学部
地域経済論	人文学部
発達史地形学	地域教育文化学部
個体群生態学	理学部
生物環境学概論	農学部
生物資源学概論	農学部
生物生産学概論	農学部
文化地理学	農学部

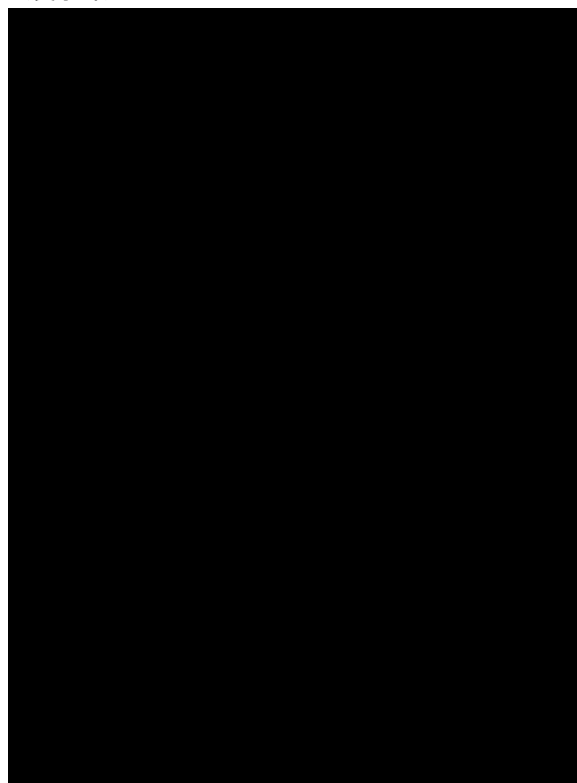
(出典：事務局資料)

資料 1-4-1 卒業研究に関する発表会

(理学部)



(農学部)



(出典：本学ホームページ)

(出典：事務局資料)

資料 1-5-1 県内の高等教育機関との単位互換


 サイト検索

最新ニュース・リンク集

[トップ](#) > [教育連携](#) > [単位互換の推進](#) > 単位互換の推進
[ホーム](#)[最新ニュース](#)[リンク集](#)

大学コンソーシアムやまがたの紹介

[大学コンソーシアムやまがたとは？](#)[事業計画・事業報告](#)[組織](#)[情報公開](#)[事業評価委員会](#)[アクセス・お問い合わせ](#)

ゆうキャンパス・ステーションの紹介

[『ゆうキャンパス・ステーション』オープン！！](#)[美しい山形から「もう一つの山づくり」](#)[ご利用案内](#)[アクセス・お問い合わせ](#)

主要事業の紹介

単位互換の推進

ゆうキャンパス単位互換とは…

単位互換を利用して、他大学の授業を受けてみませんか？
履修のお問い合わせ・申込みについては、所属大学等の教務担当まで！

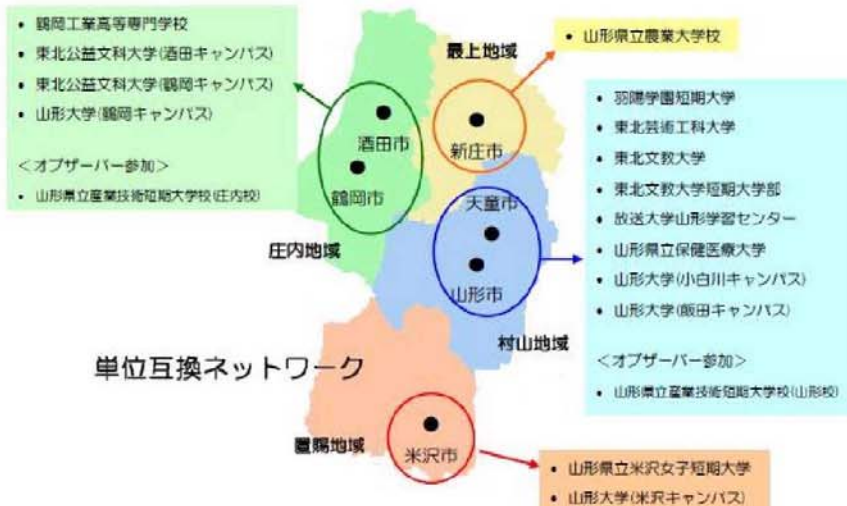
単位互換とは、大学等間で協定を結ぶことにより、**他の大学等で修得した単位を所属する大学の単位と認定するもの**です。各大学等の交流と協力を推進し、教育研究の活性化と教育課程の充実を図ります。

ゆうキャンパス単位互換では、ゆうキャンパスに加盟している山形県内9つの高等教育機関の授業を受けることができます（県立産業技術短期大学校はオブザーバー参加）。ゆうキャンパスの単位互換科目には、それぞれの大学の様々な分野の授業がたくさんあります。これを利用することで、履修できる科目の選択肢が広がります。また、大学等の枠を超え、異なる大学等の教員や学生との交流を図ることができます。

また、山形県は4つの地域にキャンパスが分散していますが、「**eラーニング**」というインターネットを利用した学習方法もあります。

eラーニングの詳細については、以下のページをご覧ください。

▶ [eラーニングの推進](#)



大学コンソーシアムやまがた単位互換の規則

単位互換の規則については、以下のページをご覧ください。

▶ [単位互換に関する包括協定書](#)
 ▶ [単位互換実施に関する覚書](#)

(出典：本学ホームページ)

単位互換に関する包括協定書	本協定書は3冊作成し、それぞれ署名捺印の上、各自1通を保管する。
この協定に当事する各大学（短期大学・高等専門学校を含む）は、相互の交流と協力を通じて、我が国及び世界の社会文化の発展増進の成果を享受し、互に互換の協定を締結することを目的とし、次に挙げる単位互換を行うことに合意する。	平成18年2月15日 山 道 大 学 仙道勇士郎
【対象学生】 第1条 本協定による単位互換制度の対象となる学生は、本協定に参加する各大学に在学する学生とする。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【受入学生の時期】 第2条 本協定に基づき、各大学が受け入れる他大学の学生は、単位互換協定者と称する。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【受入学生数】 第3条 各大学が受け入れる単位互換協定者の数は、受入大学が決定する。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【履修方法】 第4条 単位互換協定者の科目履修、単位認定等の履修方法については、受入大学の協定の定めるところによる。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【授業料等の負担】 第5条 単位互換協定者の入学に係る授業料、入学者及び授業料は徴収しない。ただし、派遣大学が受け入れた単位互換協定者及び派遣大学の全休履修者で派遣大学以外の大学が受け入れた単位互換協定者の授業料については、受入大学の定めるところによる。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【履修証明】 第6条 本協定書に基づき単位互換を円滑に実施するため、本協定に参加するすべての大学の代表者による履修証明を付ける。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【改廃】 第7条 本協定に参加する大学の変更及び本協定書の改訂については、各大学の協議によるものとする。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
【その他】 第8条 本協定書に定めるもののほか、単位互換の実施に関する諸事は、実情により別に定める。	山 東 工 科 大 学 小沢 明
附 則 この協定は、平成18年4月1日から施行する。	山 東 工 科 大 学 小沢 明

単位互換実施に関する覚書	本学は3年制課程とし、在学中に履修科目の大半を、各専攻と共通で履修する。
※単位互換実施に関する留意事項：以下に示す単位互換については、下記の条件を満たすことが必要。	平成13年4月1日より
① 履修科目の範囲	山形大学 仙道富士郎
② 履修科目の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、各専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	東北芸術工科大学 小沢 明
③ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	東北芸術工科大学 小沢 明
④ 履修科目の範囲	東北芸術工科大学 小沢 明
⑤ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	東北芸術工科大学 小沢 明
⑥ 履修科目の範囲	東北芸術工科大学 小沢 明
⑦ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 廣井 正彦
⑧ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 廣井 正彦
⑨ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	東北芸術工科大学 小松隆二
⑩ 履修科目の範囲	東北芸術工科大学 小松隆二
⑪ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑫ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑬ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑭ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑮ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑯ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑰ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑱ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑲ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
⑳ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉑ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉒ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉓ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉔ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉕ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉖ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉗ 単位互換実施の履修年次と専攻・履修科目の科目番号は、専攻と同一とし、履修科目の科目番号と専攻の名称を履修科目番号として記載する。	山形県立健康福祉大学 澤井昭男
㉘ 履修科目の範囲	山形県立健康福祉大学 澤井昭男

平成20年3月31日

山形県立産業技術短期大学校
庄内校 学校長 殿

大和コンソーシアムやまがた会
山形大学長 緒 越 孝一様

単位互換協定へのオブザーバー参加について（通知）

貴校（庄内校）から申し出のありました。大和コンソーシアムやまがた単位互換協定へのオブザーバー参加が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、取扱いについては下記のとおりです。ご留意願います。

記

◆ 県立産業技術短期大学校（庄内校）の単位互換協定へのオブザーバー参加の取扱い

県立産業技術短期大学校は、ゆうキャンパス単位互換協定に参加していませんが、大学間連携を促進させ、将来の単位互換への参加を目標として、所属学生による単位互換授業の聴講を認める。

聴講希望の学生は、単位互換履修生と同じ手続きによって受講の希望を提出し、授業出席状況の許可を得て、授業を聴講することができ、

聴講の条件等は、単位互換履修生の規定に準ずるほか、受け入れ大学等の指示に従うものとする。

大和コンソーシアムやまがた事務局
山形大学校務課内
Tel: 023-628-6542 Fax: 023-628-4349
E-mail: yamicon@n.kj.yamagata-u.ac.jp

(出典：本学ホームページ)

資料 1-5-2 海外の高等教育機関との単位互換

第Ⅲ期短期派遣留学生大募集

留学先で卒業単位をGetしよう!!

申込期間 11月19日(水)～12月12日(金)(予定)
 留学期間 平成21年8月～(半年又は1年)
 留学先 アメリカ・欧州・中国・韓国・台湾・A・Jの協定締結校
 説明会 日時11月18日(火) 16:20～18:30
 場所 小白川地区:教養教育1号館127番教室
 医学部:視聴覚教室
 工学部:学術情報基盤センター2階 テレビ会議室
 農学部:402講義室



留学先で(全米大学・人文系山形大学)

【お問い合わせ:国際交流ユニット】

Tel: 023-628-4119 Fax: 023-628-4120

E-mail: nkokusa@ym.kyomatsu-u.ac.jp

平成20年10月

2008年11月

第Ⅲ期短期派遣留学生候補者募集要項

目的	本学と大学間交流協定を締結している海外の大学へ本学の学生を1年以内の短期留学の為に派遣することを目的とする。
派遣先大学	英語圏、中国語圏、韓国語圏、及び欧州諸言語圏等の本学協定校
派遣時期	2009年秋(8月)又は2010年春(1月又は3月)※協定校の学年暦による
派遣期間	1学期または1年
応募資格	① 2009年4月1日現在本学の正規課程に在籍する学部生又は大学院生。但し大学院生への受入れの有無は協定校による。 ② 1) 英語圏、欧州諸言語圏留学の場合は、原則として、本学で実施の留体用TOEFL® ITPの得点500点以上を取得している者。又は、学外で実施のTOEFL® PBT、CBT、iBT、又はIELTSの得点が各々500点、173点、61点、5.0点以上の者。相当の英語力を有すると認められる者(例えばTOEIC 600点以上)も考慮する。 2) 派遣希望大学の使用言語が英語以外の場合は、当該言語(例えば中国語)の公的検定試験の成績証または言語能力が判断できる資料「外国語科目担当教員による推薦状(様式3)」を提出すること。 ③ 留学目的が明確で自立心のある者。 ④ 学業成績が良好で、異文化での勉学に高い関心があり、心身共に健康な者。
応募方法	下記の書類を2008年12月12日(金)までに国際センター国際交流ユニットへ提出する。 ① 2009年山形大学短期派遣留学申込書(様式1) ② 志望理由書(A4版1枚、1200字程度) 日英両語で、作成すること。ただし、英語圏以外の留学希望者については日本語と当該言語にて提出することもできる。 ③ 成績証明書 応募時は和文。英語圏等への派遣候補者として選抜された者については更に英文による成績証明書が必要となる。 ④ 学部からの推薦書(様式2) (応募時は和文。英語圏等への派遣候補者として選抜された者は英文も必要) ⑤ TOEFL等の外国語検定試験成績証又は外国語科目担当教員による推薦状(様式3)
費用	大学間交流協定に基づき、原則として留学期間中は留学先大学での授業料は納入する必要はなく、本学の授業料を引き続き納入する。但し、授業料以外の語学研修費、交換プログラム諸経費、往復旅費、留学中の生活費・食費・交通費・休中の生活費・保険料・ビザ申請料など個人的な費用は自己負担となる。
保険	往路・復路の渡航を含む留学全期間をカバーする海外旅行傷害保険に加入すること。但し、協定校が斡旋する保険への加入が義務付けられている場合は、補償範囲が異なることから両方に加入することが望ましい。
奨学金	所属学部(又は研究科)からの推薦を受けている希望者に対して、日本学生支援機構(JASSO)の「短期留学推進制度(派遣)」による奨学金の申請を大学からまとめて行う。1名程度の枠しかないので、留学のための資金的な準備を十分に整えた上で応募のこと。支給額は月額8万円。
単位認定	有り。渡航前に予め協定校が開講している希望履修科目をHIP等で選択し、所属学部の指導教員より承認を得た上で、履修すること。その上で帰国後所属学部が卒業単位の一部として認定する。
在籍	原則として、留学期間中も山形大学に在籍する。詳細については所属学部にて確認のこと。
候補者の選考	書類選考と面接により、山形大学国際センター運営会議の派遣・受入選考担当が派遣留学候補者を決定する。協定校での審査後、最終的な派遣留学生が決定となる。
選考日程	2009年度は、以下の日程で行う。 ☐ 申込期間 11月19日(水)～12月12日(金) ☐ 書類選考 12月中旬 ☐ 面接(語学面接を含む) 12月中旬～下旬 ☐ 候補者発表 1月(補欠若干名を含む場合あり) ☐ 派遣学生の決定 3月～6月(協定校による)

STEP-YU
 Spring Semester 2010 - Spring Semester 2011
Short-Term Exchange Programs at Yamagata University
 山形大学短期交換留学プログラム
 YAMAGATA UNIVERSITY JAPAN

2. 山形大学短期留学交換プログラムの概要

山形大学は、本学と学生交流協定を締結している大学等の学生を、その大学に在籍したまま山形大学に受け入れる短期交換留学制度を設けています。これらのプログラムを総称して、山形大学短期交換留学プログラム(STEP-YU)と呼びます。

- (1) 学部・大学院交換留学 (Ippan: Japan General Research Program)
- (2) 日本語・日本文化研修留学生 (Nikkensei: Japanese Studies Program)
- (3) Yamagata University Japan Studies Program (JSP)

JSPの詳細は、11月初めに下記web siteに掲載されます。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/eng/japaneseStudies/index.html>

滞在期間は(1):半年あるいは1年、(2):1年です。主な対象者は、(1):大学間・学部間交流協定校に所属する学生、(2):大学間交流協定校に所属する学生です。協定校との間で、単位互換と授業料相互不償収(協定で決められた人数)が定められています。協定校一覧は、山形大学のサイトを参照してください。

2009年度秋学期は、25名の短期留学生在本学で学んでおり、うち14名が何らかの奨学金を受給しています。

(出典: 本学ホームページ)

理工学研究科(工学系)博士後期課程 シラバス

各専攻名をクリックすると、ページが移動します。

[物質生産工学専攻](#)

[システム情報工学専攻](#)

[生体センシング機能工学専攻](#)

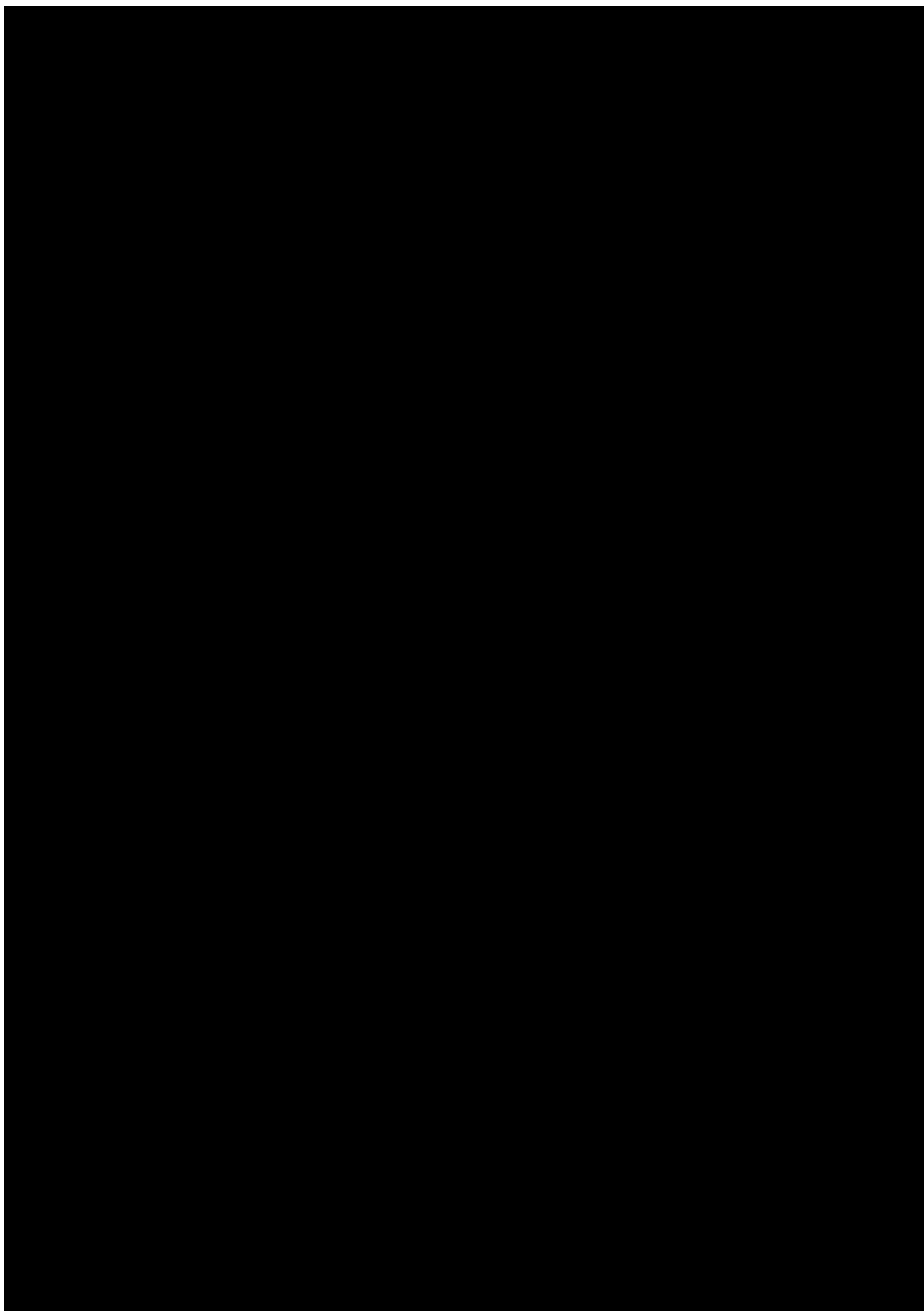
[ものづくり技術経営学専攻](#)

[有機デバイス工学専攻](#)

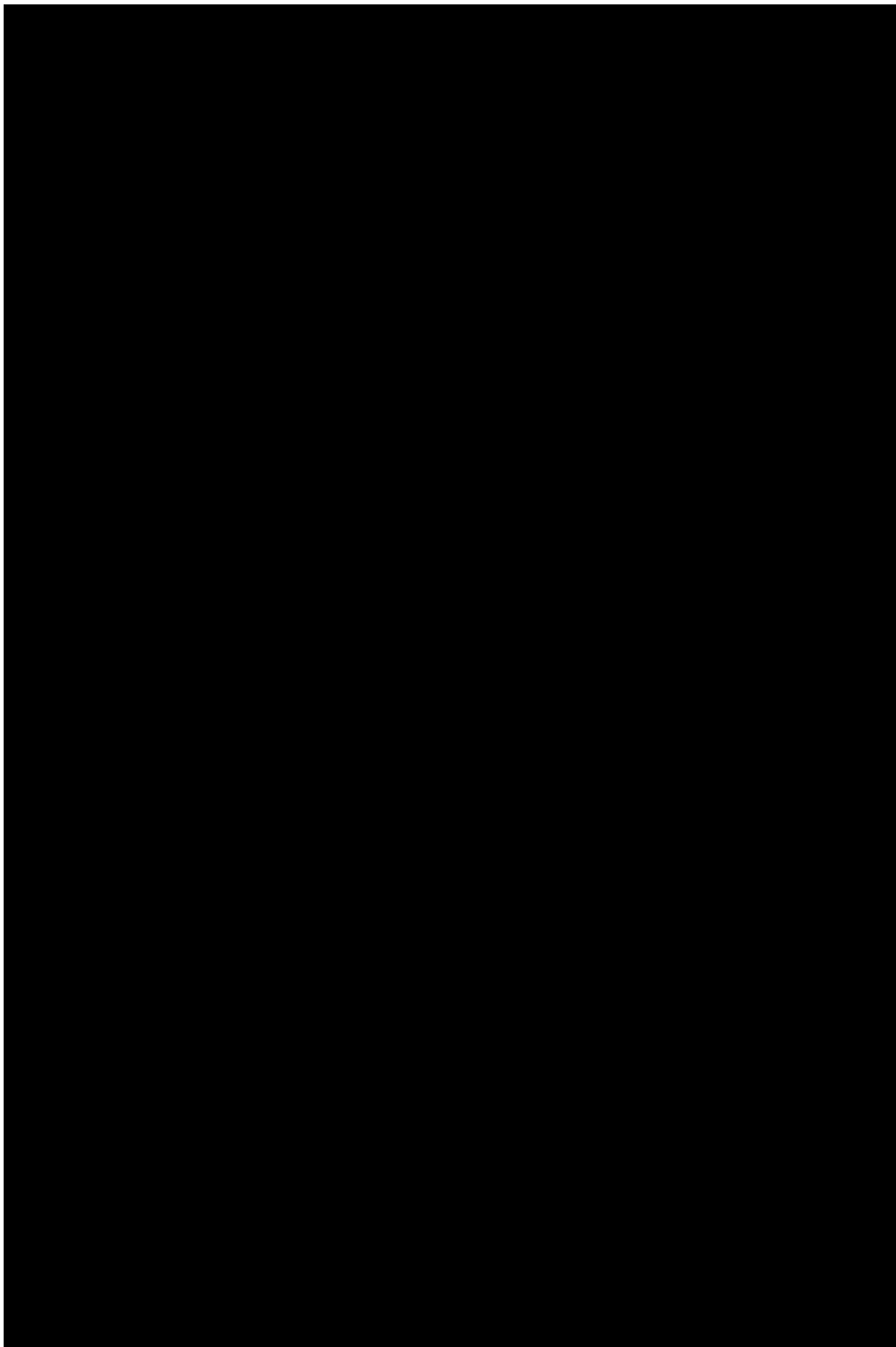
科目名：生体模倣化学特論 (英文名：Biomimetic Chemistry) 担当教員：	開講学期：後期 単位数：2 開講形態：授業
開講対象：物質生産工学専攻	
【到達目標】 ○生体内で行われている種々の特異的物質変換反応を取り上げ、生体組織や生体物質と変換される生体物質の間の相互作用の機構説明・機能解析に関する理解を説明できる。 ○タンパク質の構造、機能、疾患についての基本的な理解を説明できる。	
【授業概要・計画】 第1～5週：生体タンパク質の構造と機能及び疾患 第6～10週：生理現象、生体反応、代謝 第11～15週：免疫機能と運動	
【成績評価の方法と基準】 レポート（口頭試問）により達成度を判断する。	
【参考書】 ヴォート生化学第3版 上・下（東京化学同人）	
【担当教員の専門分野】 有機合成化学，有機電子材料科学，活性酸素化学，超分子化学，分子認識化学	

（出典：本学ホームページ）

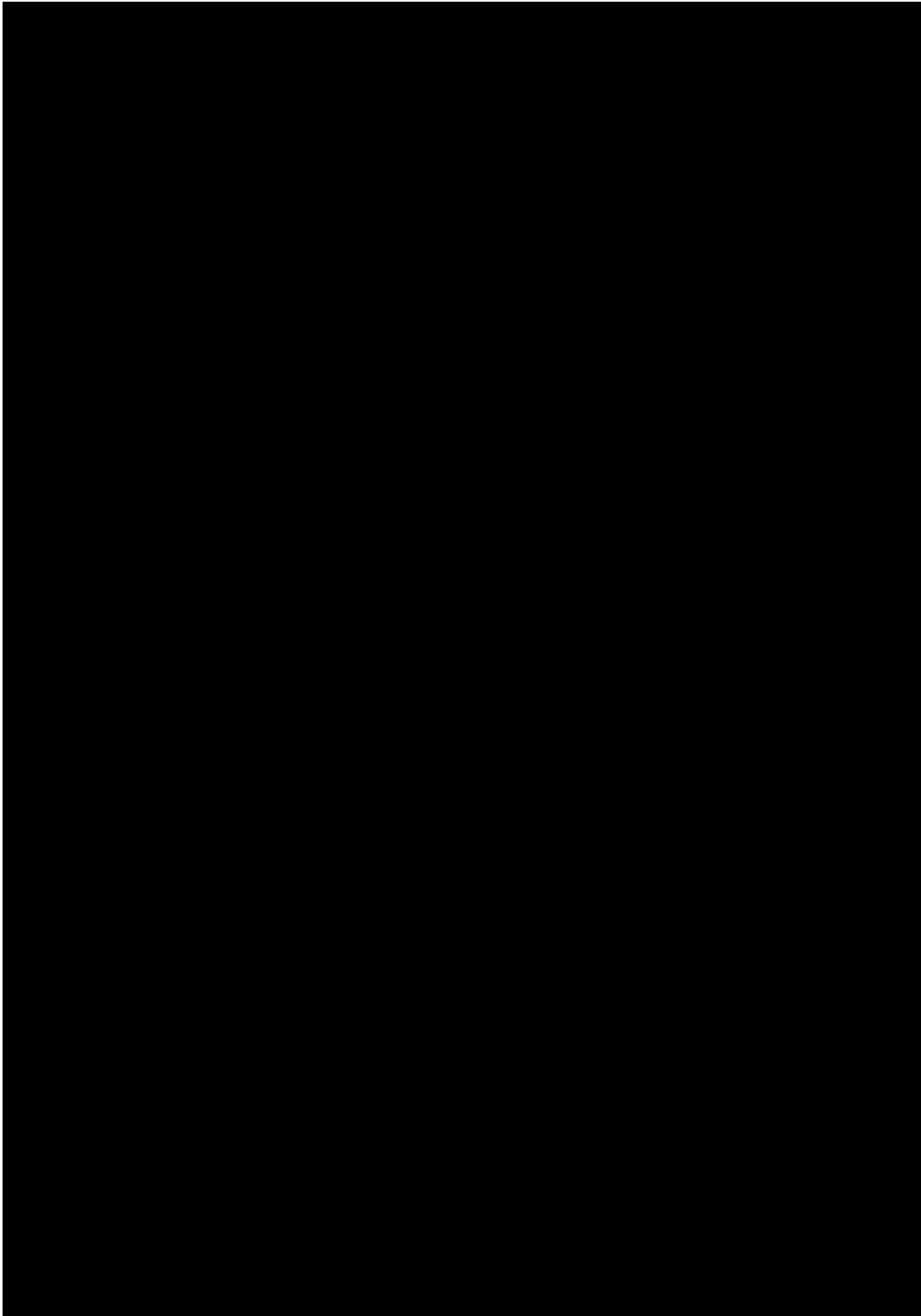
資料 1－7－1 教員の個人評価



(出典：事務局資料)



(出典：事務局資料)



(出典：本学ホームページ)

資料1-7-2 教員の選考に関する規程

国立大学法人山形大学教員選考規程

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人山形大学（以下「本学」という。）の教授、准教授、講師（常勤に限る。）、助教及び助手（以下「大学教育職員」という。）の選考について定めることを目的とする。

(選考)

第2条 大学教育職員の選考は、本学が総合大学として水準の高い教育研究の推進を目指す大学であることに鑑み、人格及び識見ともに優れた者について、その教育業績、研究業績、教授能力等を総合的に判断して行うものとする。

2 大学教育職員の選考は、各学部、各研究科、基盤教育院、保健管理センター及び役員会（以下「部局」という。）が定めた理念及び目標に沿って行うものとする。

3 大学教育職員の選考は、公募を原則とし、特定の大学出身者に偏ることなく、国内外又は性別を問わず広く適任者を求めるものとする。

(教授の資格)

第3条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、研究上の業績を有する者

(2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者

(3) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績を有する者

(4) 大学において教授、准教授又は専任の講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

(5) 芸術、体育等については、特殊な技能に秀でていると認められる者

(6) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(略)

附 則

この基準は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：山形大学例規集)

国立大学法人山形大学における個別契約任期付教員に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人山形大学（以下「本学」という。）が、国立大学法人山形大学職員人事規程（以下「人事規程」という。）第4条第2項の規定に基づき、個別の契約により任期を定めて雇用する教員（以下「個別契約任期付教員」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 この規程を適用し雇用することができる個別契約任期付教員は、人事規程別表に定める教員のうち、先進的な研究又は特に重要な事業に基づき実施される教育・研究に従事する教授、准教授、講師、助教及び助手とする。

(採用方法)

第3条 個別契約任期付教員の採用は、選考によるものとし、公募を原則とする。

2 前項の選考は、国立大学法人山形大学教員選考規程により、当該教授会、研究科委員会若しくは役員会の議又は基盤教育院会議若しくは保健管理センター運営会議の意見を踏まえた当該運営会議議長の決定に基づき学長が行う。

(略)

(雇用期間等)

第5条 個別契約任期付教員は、個別の契約により、5年を限度として雇用期間を定める。

2 前項の雇用期間が5年に満たないときは、採用時から5年に至るまでの期間を更新することができる。

3 雇用期間は、国立大学法人山形大学職員就業規則（以下「就業規則」という。）第19条に規定する定年退職日を超えることができない。

4 個別契約任期付教員には、就業規則第20条の規定は適用しない。

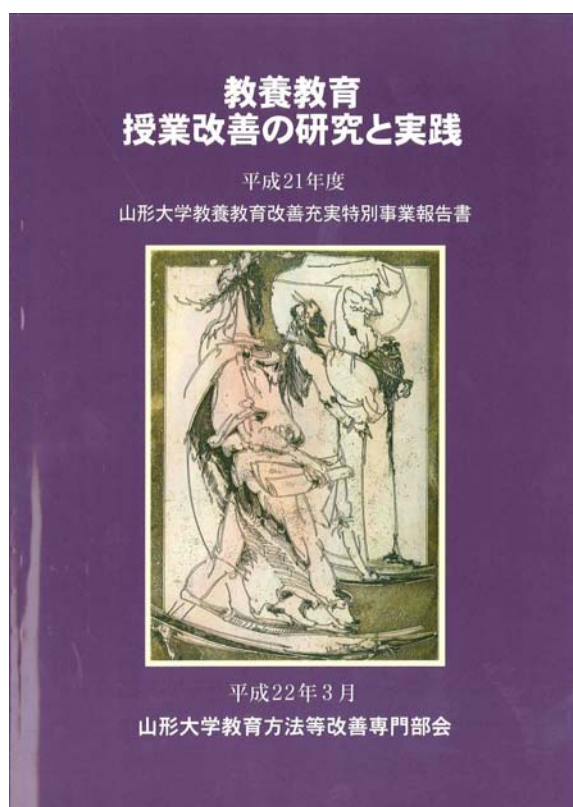
(略)

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：山形大学例規集)

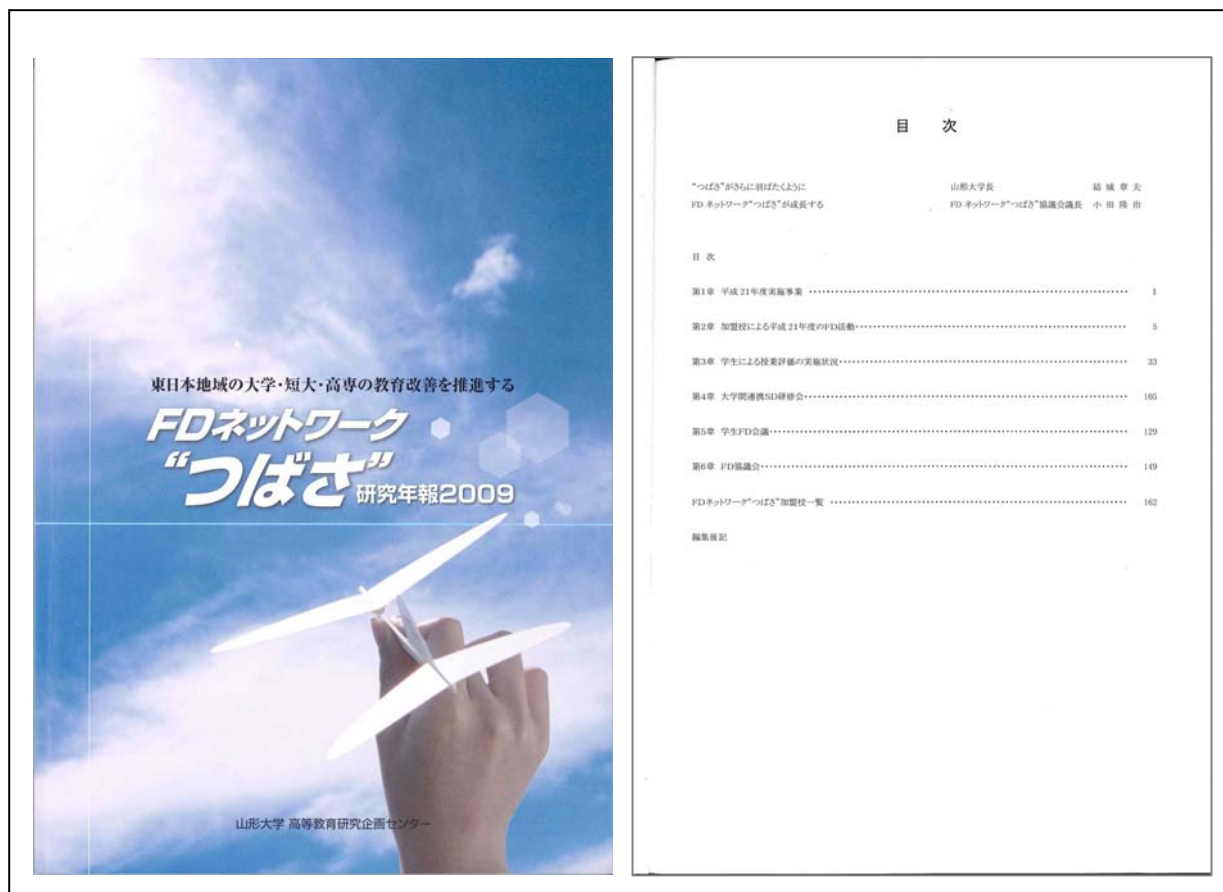
資料 1-8-1 教育の質の改善に関する成果報告書



目 次	
「教養教育の改善と充実のために」	山形大学長 結城 章夫
「教養教育の授業改善へ向けて」	教育方法等改善専門部会会長 中島 勇喜
序 章 事業の概要	… 1
第1章 山形大学教員研修会「第11回 教養教育ワークショップ」	… 3
第2章 山形大学教員研修会「第9回 教養教育FD合宿セミナー」	… 71
第3章 学生と教員による授業改善アンケート	… 151
第4章 公開授業・公開検討会（ベストティーチャー賞）	… 207
第5章 学生主体型授業	… 225
第6章 さらに授業改善に向けて	… 287
山形大学教育方法等改善専門部会委員名簿	… 289
編集後記	… 290



目 次	
巻頭言	結城 章夫 (山形大学長)
第一部	
特別稿：平成21年度山形大学教養教育ベストティーチャー賞受賞記念	
岩田 尚徳 ……	6
教養教育科目「地球惑星科学概説」について	
第二部	
研究論文・事例報告	
杉原 真見 ……	12
フィールドワークを評価する —「フィールドワーク—共生の森もがみ」の3年間の総括—	
小田 隆治 ……	24
FD/SDのビデオ教材の作成とその活用	
酒井 俊典 ……	27
「学生主体型授業」の共同開発に関する一考察 —パイロット授業「未来学へのアプローチⅠ・Ⅱ」の実践事例報告—	
森谷 菜穂子・高橋 加津美・丸山 俊明 ……	33
山形大学附属博物館、地域貢献のために— 特別展・公開講座報告 —	
佐々木 美紗・小林 祥・林 義樹 ……	45
院生参画授業の実施 日本教育大学院大学の院生によるゼミ実践報告	
第三部	
高等教育研究企画センター 平成21年度活動報告	… 58
『山形大学高等教育研究年報』投稿規定	… 69
高等教育研究企画センター名簿	… 71



資料 1－9－1 サークル棟の新設



【小白川キャンパスに新設したサークル棟】

資料 1-10-1 課外活動の活性化

H20 元氣プロジェクト

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小 | アラビア | 読み易い文字 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 | 総務一室

学務・授業科系課・留学会
学生情報
下リサーチシステム
(後援の学生支援)

学生情報
元氣プロジェクト
保健管理センター
学生への学費負担
サクル・課外活動
アルバイト情報
保健関係
ボランティア情報
就職に役立つ
学生センター

学内指定(在学生向け)
保健関係
学生呼び出し
保健関係
その他の連絡

学ホームページ運営委員
学人情報課保健科
保健関係

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、保健課広報ユニットまで。
〒980-8508 山形市小谷川町一丁目4-12 TEL: 023-628-4008
E-Mail: publicaffairs@yamagata-u.ac.jp

Copyright© YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

【プロジェクト一覧】

番号	プロジェクト名	実 施 内 容
1	学生広報雑誌を送りましょう	山形生に大学内に存在する様々なPOPや文化に学生広報雑誌(ASNY)を通して届けよう 第三期 ASNY Vol.9 / Vol.9.5 / Vol.10
2	1年生のための教養教育ガイド	教養教育の各授業を紹介するガイドを作成し、1年生が授業を選択する際に活用する。
3	正しい勉強、きれいな山犬	勉強で手渡切な勉強をなくすため、勉強マップの作成及び勉強指定区域の決まりを山犬に自覚の徹底を行う。
4	「遊園地」武蔵を中心とした国際交流・社会貢献、地元の国際交流・社会貢献、講演活動を行う。	武蔵(武蔵・総合遊園地)を中心とした活動を通して、国際交流、社会貢献、地元の国際交流・社会貢献、講演活動を行う。
5	みんなで大学に芝生を植えるプロジェクト	小田川体育館裏の建物取り壊し跡地に、学生、教職員、地域住民等の参加型で芝生の広場を整備する。
6	大学イメージングの作成	学生希望に満ちあふれた活気とパワーのある若者らしい山形大学のイメージングの作成。多数のイベントに参加し、イメージを定着させる。 山形大学イメージング「夢のかたち」
7	山犬のマスコットキャラ企画	既存する「学長せんべい」に続き、新たに学生の視点から山形大学のマスコットキャラクターを創造する。
8	Yamagata Formula Project	小型フォーミュラーの設計・製作を行い、第6回全日本学生フォーミュラ大会に参加する。大学祭やオープンキャンパス等で展示や試走を行う。

H21 元氣プロジェクト

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小 | アラビア | 読み易い文字 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 | 総務一室

学務・授業科系課・留学会
学生情報
下リサーチシステム
(後援の学生支援)

学生情報
元氣プロジェクト
保健管理センター
学生への学費負担
サクル・課外活動
アルバイト情報
保健関係
ボランティア情報
就職に役立つ
学生センター

学内指定(在学生向け)
保健関係
学生呼び出し
保健関係
その他の連絡

学ホームページ運営委員
学人情報課保健科
保健関係

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、保健課広報ユニットまで。
〒980-8508 山形市小谷川町一丁目4-12 TEL: 023-628-4008
E-Mail: publicaffairs@yamagata-u.ac.jp

Copyright© YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

【プロジェクト一覧】

番号	プロジェクト名	実 施 内 容
1	もがみ地域活性化プロジェクト	学生が県内の農上地域において行われる祭りなどの地域活動に参加することで、地元の活性化及び地域活性化を目指す。
2	山形大学イメージングをのびのびと	平成20年度の「山形大学・元氣プロジェクト」で制作された山形大学イメージングをのびのびと、多くの学生に知ってもらえるようにPR活動を行う。それにより、山形大学に対する興味関心を高め、身辺で聞かれた大学である認識される。
3	元気をつくる「山」	「元気をつくるための山」をテーマとして、学生自身が一人から高層植物を栽培することで、「山」を大切にすることを学ぶ。さらに、収穫物を本学学生に提供することで、野菜等を授業で学べることに、地域の活性化及び環境問題の解決を目指す。
4	遊園地	学生に対して、武蔵の実験による日本文化の理解及び自己表現の場を提供する。さらに、多数の留學生の参加による英語を使ったコミュニケーション力の向上及び海外への技術指導による大学のPRを図ることができ。
5	元気な山形大学	学生が山形大学をクイズ形式で紹介する山犬決定版、大学の各種行事を盛り上げると共に、地域の活性化及び留學生の増加を図る。
6	美しいキャンパス	構内に植物及びベンチ等を増やすことにより、学生及び地域の方々にとっての憩いの空間に近づけると共に、構内の清潔化の促進を目指す。
7	Yamagata Formula Project 2009	小型フォーミュラーの企画・設計・製作を通して、学生の実践的な設計・製作技術及び企画力ならびにコストマネジメント能力等の修得を目指す。さらに、第7回全日本学生フォーミュラ大会及び大学祭等に出席または展示することで、大学のPR活動を行う。

H20 元氣プロジェクト表彰式

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小 | アラビア | 読み易い文字 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 | 総務一室

学務・授業科系課・留学会
学生情報
下リサーチシステム
(後援の学生支援)

学生情報
元氣プロジェクト
保健管理センター
学生への学費負担
サクル・課外活動
アルバイト情報
保健関係
ボランティア情報
就職に役立つ
学生センター

学内指定(在学生向け)
保健関係
学生呼び出し
保健関係
その他の連絡

学ホームページ運営委員
学人情報課保健科
保健関係

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、保健課広報ユニットまで。
〒980-8508 山形市小谷川町一丁目4-12 TEL: 023-628-4008
E-Mail: publicaffairs@yamagata-u.ac.jp

Copyright© YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

山形大学・元氣プロジェクト表彰式

平成20年度山形大学・元氣プロジェクト表彰式が行われました

8月1日(金)午前11時より、学芸室において、山形大学・元氣プロジェクトの平成20年度表彰式に出席された各団体の代表者に対する、表彰式が行われました。

表彰式では、各プロジェクトの代表者へ表彰状と副賞(目録)が授与され、その後、結城学長より今後のプロジェクト実施に向けて激励の言葉をかけられました。

表彰式の後は、学芸室を囲んでの懇話会が行われ、各代表者がそれぞれのプロジェクトの概要や意見交換を話し、それに対して結城学長や中島副学長から質問がなされるなど、和やかな雰囲気での懇話となりました。最後に、プロジェクト代表者及び結城学長始め本日の出席者の方々と写真撮影を行い、懇話の締めくくりとなりました。

山形大学・元氣プロジェクトは、学生の課外活動等の活性化を図ると共に、本学を学生の皆さん自身の力によって発展させることを目標とし、平成18年度より、毎年プロジェクトを推進し実施しています。今年度は第6期表彰式のうちから、表彰が授与されました。授与プロジェクトは次のとおりです。

1. 学生広報雑誌を送りましょう 第三期
2. 1年生のための教養教育ガイド
3. 正しい勉強、きれいな山犬
4. 「遊園地」武蔵を中心とした国際交流・社会貢献
5. みんなで大学に芝生を植えるプロジェクト
6. 大学イメージングの作成
7. 山犬のマスコットキャラ企画
8. Yamagata Formula Project

この部分は著作権の関係で掲載できません。

この部分は著作権の関係で掲載できません。

記念撮影の写真

表彰式の一部

女子剣道部 ベスト16

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小 | アラビア | 読み易い文字 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 | 総務一室

学務・授業科系課・留学会
学生情報
下リサーチシステム
(後援の学生支援)

学生情報
元氣プロジェクト
保健管理センター
学生への学費負担
サクル・課外活動
アルバイト情報
保健関係
ボランティア情報
就職に役立つ
学生センター

学内指定(在学生向け)
保健関係
学生呼び出し
保健関係
その他の連絡

学ホームページ運営委員
学人情報課保健科
保健関係

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、保健課広報ユニットまで。
〒980-8508 山形市小谷川町一丁目4-12 TEL: 023-628-4008
E-Mail: publicaffairs@yamagata-u.ac.jp

Copyright© YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

山形大学女子剣道部全日本学生剣道優勝大会でベスト16!!

山形大学女子剣道部が全日本学生剣道優勝大会でベスト16に入りました。

女子剣道部からのコメントは以下のとおりです。

「私たちは東北予選を勝ち抜き、11月8日名古屋で行われた第28回全日本学生剣道優勝大会において、ベスト16という好成績を残すことができました。1回戦、対関西外国語大学では1-1の代表戦により勝利をつかみ、2回戦、対山形大学では1-1の本戦勝ち。続く3回戦対中京大学で0-3で惜しくも敗退しました。昨年の1回戦敗退から、チーム一丸となって頑張った成果が出て嬉しく思います。1年間の最大であるこの大会で結果を残すことができ自慢にもつなりました。来年に向けて、さらに精進していきたいと思っています。」

この部分は著作権の関係で掲載できません。

(出典：本学ホームページ)

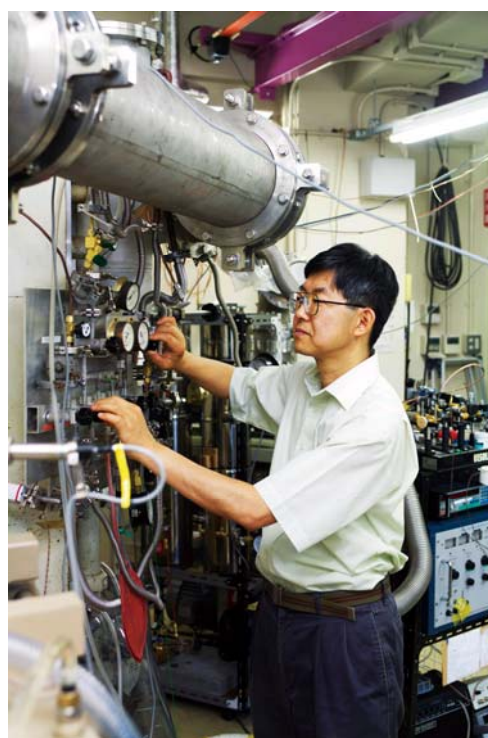
資料 2-1-1 YU-COE（山形大学先進的研究拠点）



【分子疫学に関する研究】



【有機ELに関する研究】



【核子スピンの研究】

（出典：結城プラン2010）

資料 2-1-2 山形大学 YU-COE 推進本部 規程

山形大学 YU-COE 推進本部 規程

(設置)

第 1 条 山形大学（以下「本学」という。）に、YU-COE 推進本部（以下「推進本部」という。）を置く。

(設置目的)

第 2 条 推進本部は、本学の研究推進戦略を策定するとともに、優れた研究拠点（以下「COE」という。）を発掘・選定・支援・育成することにより、本学の研究活動を高度化・活性化し、その優れた研究成果を活用して教育や社会に貢献することを目的とする。

(業務)

第 3 条 推進本部は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 本学における研究推進戦略の策定に関すること
- (2) 本学における COE の選定に関すること
- (3) 本学における COE の支援に関すること
- (4) 本学における COE の評価に関すること
- (5) 次世代 COE の発掘及び育成に関すること
- (6) その他研究推進に関する必要な事項

(組織)

第 4 条 推進本部は、次に掲げる者で組織する。

- (1) 学長
- (2) 教育関係業務を担当する副学長
- (3) 研究関係業務を担当する副学長
- (4) 社会連携関係業務を担当する副学長
- (5) 人事関係業務を担当する副学長
- (6) 財務関係業務を担当する副学長
- (7) その他学長が必要と認めた者

(本部長)

第 5 条 推進本部に本部長を置き、学長をもって充てる。

(タスクフォース)

第 6 条 推進本部に、推進本部を補助するため、タスクフォースを置くことができる。

(協力)

第 7 条 推進本部は、必要に応じて、各部局、国際事業化研究センター、知的財産本部、研究プロジェクト戦略室等の関係組織に対し、協力を求めることができる。

(事務)

第 8 条 推進本部の事務は、企画部において処理する。

(その他)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、推進本部に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 21 年 12 月 24 日から施行する。

(出典：山形大学例規集)

資料 2-2-1 組織評価

■「平成21年度組織評価」を実施して

山形大学では、平成18年度から各部局の教育研究の質の向上及び運営の活性化を図ることを目的に、全学的な自己点検・評価として組織評価(業務実績評価)を行っております。

具体的には、各部局における①運営、②教育、③研究、④社会連携、⑤診療(附属病院のみ)活動の自己点検・評価に基づき、役員会で評価を行っております。

本学における組織評価の特徴としては、①評価の公平性を確保するために、経営協議会の学外委員に評価者として加わっていただいていること、②評価結果に応じて部局にインセンティブ経費を配分していることの2点があげられます。

平成21年度の組織評価の実施にあたっては、昨年度に引き続き、書面審査に加え、各部局長とのヒアリングを取り入れております。



ヒアリングの様子(9月18日)

【評価結果概要】

①運営面については、各部局において、学部長を中心としたマネジメント体制の整備、意思決定の迅速化など、様々な組織改革が進んでいることが評価されています。また、教職大学院などの新大学院設置・認可に向けた努力も評価されています。

②教育面については、丁寧な進路指導等による良好な就職状況、JABEEプログラム・キャリア教育・大学院でのインターンシップ・英語での教育等の取組への努力、音楽・スポーツ分野の指導の成果、チューデントドクターの取組、卒業研修のマッチングの高さなどが評価されています。

③研究面については、グローバル COE に採択された「分子疫学の研究」、「有機ELに関する研究」、CERN(欧州原子核研究機構)における「核子スピンの研究」、「世界遺産ナスカの地上絵に関する研究」の進展のほか、科学研究費補助金の申請数の増加などが評価されています。

④社会連携については、各部局において、それぞれの特色を活かした取組を実施し、特に社会人の大学院教育や地元産業との協力、SCITAセンターの活動を通じての科学の普及への努力などが評価されています。

⑤診療(附属病院)については、縦割りをやめ患者中心の医療を行っていること、外部評価を受けていること、病院再開発中にもかかわらず経営が改善されていること、教育・研究に関する学部との連携、地域医療への貢献などが評価されています。



【有機ELシャンデリア】



【わんぱく農業クラブ～親子向け農業体験～】

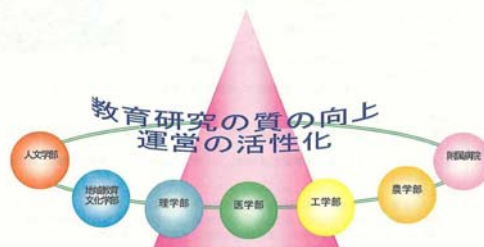


【ナスカ地上絵の謎】



【医学部附属病院新病棟】

【各局局の特徴的取組み】



人文学部

①運営

- ・学部長と副学部長が学部委員会を分掌し業務を迅速に遂行させました。
- ・現行の教養教育には従来どおり全面的に協力し基礎教育院の設置計画について、多数の教員が積極的に検討に参加し、基礎教育のカリキュラム策定について多大な貢献を果たしました。

②教育

- ・学生による授業評価アンケート結果をとりまとめ、詳細な分析を行った報告書を刊行しました。
- ・多くの教員が教養教育へ多大な貢献をしました。
- ・初年次基礎教育における少人数クラスの授業改善のための研修等、学部独自のFD活動を行いました。
- ・実践型就職対策講座を行うなど、厚い就職指導を行い、高い就職率を維持しました。

③研究

- ・世界的に適用する「ナスカ地上絵の研究」成果に基づき、「ナスカ地上絵の謎」を仙台市において開催し、多数の市民から好評を得ました。
- ・科研費等支援専門委員会を中心とした活動により良好な科研費申請率を維持しました。

④社会連携

- ・地域リーダー育成のために「地域づくり特別演習」等を実施しました。
- ・英語の実践教育のために「異文化コミュニケーション」実習を活用し、北東アジアの大学との交流を深めています。



【実践型就職対策講座】

地域教育文化学部

①運営

- ・教職大学院・地域教育文化研究科の設置認可を得ました。
- ・教員採用率向上を目指す「教員合格率向上特別対策室」を設置し、面接・就職セミナーを計画的に実施しました。

②教育

- ・学生と教員による「授業改善懇談会」を開催し、意見交換を行い、FD活動に努めました。
- ・2年次、3年次に「保護者懇談会」を開催して、学生生活や学習状況等を説明し、きめ細やかな支援を行いました。

③研究

- ・科学研究費補助金の申請率を高めるため、サポーター制度を充実し、獲得者による科研費説明会を開催しました。
- ・「やまがたエネルギー環境教育研究会」を組織し、シンポジウムを開催し、3年間で蓄積した研究成果を取りまとめ報告しました。

④社会連携

- ・地域の教育・文化・生活の発展に貢献するための取組みを行いました。
- ・教育面では、県内の小中学校における教育相談を始め、新分野として環境教育の普及事業などに学部として積極的に取組み、山形県や地方公共団体の教育政策の立案などに積極的な支援を行いました。
- ・文化活動として市立病院で定期演奏会やチャリティコンサートを開催して、地域との交流を図るとともに大学への理解を深めました。



【女子サッカー部】

理学部

①運営

- ・学科長会議を廃止して学部運営会議を設置するなど、意思決定の迅速化を図りました。
- ・学部の教育・研究の活性化と各教員の連携を組織的に進めるため、学科における課産制を廃止することにしました。

②教育

- ・卒業する学生に対する学部教育の満足度調査で、良好な結果が得られました。
- ・学生による授業評価の積極的な活用や教員相互の授業参観など、授業改善に努めました。
- ・一般教育科目の3分の1を担当し、教養教育に多大な貢献をしました。

③研究

- ・欧州原子核研究機構(CERN)との研究協力を継続し、核子スピンの研究の実施体制を強化しました。
- ・水素貯蔵材料先端基盤研究(NEDO)、学術創成研究(パルス中性子源を活用した量子機能発現機構に関する融合研究)などを推進しました。
- ・学内外の制度を利用して若手教員の研究活動を支援する取組みを行いました。

④社会連携

- ・「やまがた未来科学プロジェクト」の活動拠点となるSCITAセンターの整備と各種事業において中心的な役割を果たし、科学系イベントや教員研修など様々な体験型科学実験プログラムを提供しました。
- ・県立高校との包括的協定を締結し、高校生が大学の研究室で実験を行うなどの連携事業を展開しました。



【小学生実習風景：SCITAセンター】

医学部

①運営

・医学部がんセンターの設置や医師国家試験対策(合格率95%)など、附属病院との一体的な運営を行いました。
・山形大学産王協議会での有機的連携、山形大学地域医療医師適正配置委員会による医師紹介体制の確立などに取組み、地域医療機関や医療行政と連携をとりました。



[スチューデントドクター認定書授与式]

②教育

・全国に先駆けて、学生に対し「スチューデントドクター」の称号を授与し医師行為(法律内での診察)を実施させるなど、充実した臨床実習を行っています。
・「医学部総合医学教育センター」において、全国唯一の医師等のリフレッシュ(再教育)推進事業を実施しました。

③研究

・グローバルCOEが採択され、分子疫学研究の世界的拠点形成に向けた取組みを開始しました。
・がんセンターの設置、「東北がんEBM人材育成・普及推進事業」の採択など、がんに対する積極的な取組みを行いました。

④社会連携

・山形県における全国初の「医療対策協議会」への委員参加、「周産期医療懇話会」への出席など、地域の医療に多大な貢献を果たしています。
・毎年度定期的に実施している公開講座や講演会を、引き続き20年度も実施しました。
・国際面においては、姉妹校協定大学から研修生を受け入れ、国際交流事業を推進しました。

工学部

①運営

・バイオ工学関連学科の新設と夜間主コース及び大学院の改編について学部内で検討を進めました。
・公募による教員採用を行うなど、優秀な教員確保に努めました。
・事務系職員の人事評価を全学に先駆けて実施し、人事評価システムを確立しました。



[科学フェスティバル]

②教育

・JABEEを利用した4プログラムを充実させました。
・「世界初級」の「教育プログラム」が開設され、世界市場を俯瞰できる人材の育成を開始しました。
・キャリア教育に關し、文科省の「現代GP」と「派遣型高度人材育成事業」の採択を受け、長期間企業に派遣するインターンシップなどの取組みを展開しています。

③研究

・有機ELに關する研究は引き続き精力的に行われており、照明用有機ELパネルの事業性検証会社・ルミオテックが設立されるなど、事業性を見極める段階に入りました。
・外部資金の獲得や論文数の増加など、積極的に研究活動を推進しました。

④社会連携

・自治体や金融機関との人事交流等を通じた技術支援が機能し、地域産業の活性化につながる貢献を果たしました。
・モバイルキッズ・出前理科実験教室など、小中高生の科学教育への貢献を果たしました。
・国際交流においては、東南アジアの大学と新たに交流協定を締結しました。

農学部

①運営

・第三者の助言を取り入れ、「企画広報室」を設置し、情報発信の強化と地域連携・地域貢献の一層の推進を図りました。
・農学部重点5項目や農学部躍進プランに基づいて、様々な改革・運営に取り組みしました。



[高校生への夏期セミナー]

②教育

・英語でのプレゼンテーションを学ぶ授業を開講し、英語による発表能力の向上を図りました。
・フィールドに根ざした体験型教育の充実や教員相互の授業参観など、教育の質の向上に向けた取組みを行いました。

③研究

・ダダチャビの栽培でエグマメ研究会から、初のエグマメ研究会賞を受賞しました。
・農学部で行っている多岐に渡る研究内容について、山形新聞に「知の最前線」として連載をスタートさせました。

④社会連携

・地元自治体や国の各種委員会などに委員として参画し、産学官連携事業を企画・実施し地域振興等に貢献しました。
・公開講座・市民講座・出前講座・大学開放事業などを行い地域に密着した活動を実施しました。
・国際交流においては、協定締結機関と積極的に交流することにより、共同研究の実施、研究者・留学生等の受け入れ、学生の派遣を企画しました。

附属病院

①運営

・医療に最も求められている医療の質の向上・医療安全の推進のため、重要な部門は病院長の直轄としています。
・ISO9001による組織評価など、外部評価を受けて普段の活動にリンクさせています。
・病院再開発中にもかかわらず、経営が改善されました。



[臨床実習の様子]

②教育

・臨床実習中心の早期臨床教育内容の高度化を図り、研修医の獲得数において東北地方でトップの成果を挙げています。
・診療科偏在を解消するために自由選択専修コースを新設しました。
・医師等のリフレッシュ(再教育)推進事業や、スチューデントドクターの実習受け入れなど、医学部と協力して教育を推進しています。

③研究

・グローバルCOEなど、医学部と連携して研究を推進しました。
・がんの治療のための研究の成果を挙げ、厚生労働省がん拠点病院の指定を受けました。

④社会連携

・山形県における医師の紹介体制を整備するなど、地域医療機関との連携を図りました。
・災害派遣チーム(DMAT)を編成し、国や県の要請に応える体制を整備しました。また、新型インフルエンザ対策については、クリーンブースを設けるなどの対応をしました。

⑤診療

・新病棟が開設され、先進医療を提供する体制が整備されました。
・がんセンターやがん患者相談室の活動、新生児特定治療室(NICU)の立ち上げなどにより、診療の質を向上させました。

(出典：本学ホームページ)

資料 2-3-1 学位論文要旨・科学研究費補助金報告書

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小

アクセス | 問い合わせ先 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 組織一覧

山形大学教員紹介
研究紀要
研究紹介ポスター
博士学位論文(要旨)
KAKEN
21世紀COE
ニュース一覧
イベント一覧
イベントカレンダー
研究者向け情報
研究助成金情報
Web Mail

ホーム > 研究案内 > 博士学位論文(要旨)

研究案内

博士学位論文(要旨)

博士の学位を授与したので、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第8条の規定に基づき、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表します。

- 平成21年9月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士
- 平成21年3月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士
- 平成20年9月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士
- 平成20年3月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士
- 平成19年9月 課程博士(理工学系) 論文博士
- 平成19年3月 課程博士(医学系・理工学系・生医系) 論文博士
- 平成18年9月 課程博士(理工学系) 論文博士
- 平成18年3月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士
- 平成17年9月 課程博士(医学系) 論文博士
- 平成17年3月 課程博士(医学系・理工学系) 論文博士

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、総務部広報ユニットまで。
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023(626)4006
E-Mail gaibun@ym.ky.yamagata-u.ac.jp

Copyright(C) YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

山形大学 YAMAGATA UNIVERSITY

文字の大きさ: 大・中・小

アクセス | 問い合わせ先 | サイトマップ | English Version

総合イベント案内 組織一覧

山形大学教員紹介
研究紀要
研究紹介ポスター
博士学位論文(要旨)
KAKEN
21世紀COE
ニュース一覧
イベント一覧
イベントカレンダー
研究者向け情報
研究助成金情報
Web Mail

ホーム > 研究案内 > KAKEN

研究案内

KAKEN(国立情報学研究所提供)

KAKENとは?

KAKEN(国立情報学研究所提供): <http://www.kaken.jp/>
科学研費補助金データベースのサイトです。
山形大学の科学研費補助金採択事業については、以下の手順でご覧ください。

KAKENの検索方法

①～⑤の手順で山形大学の科学研費補助金データベースがご覧になります。



①「研究機関を検索」をクリック

②「研究機関一覧を参照」をクリック

③「一覧上へ」をクリック

④「山形大学」をクリック

⑤「研究課題を検索」をクリック

このホームページに関するご意見・お問い合わせは、総務部広報ユニットまで。
〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 TEL 023(626)4006
E-Mail gaibun@ym.ky.yamagata-u.ac.jp

Copyright(C) YAMAGATA UNIVERSITY All Rights Reserved.

(出典：本学ホームページ)

資料 2-4-1 テニユア・トラック推進特区



山形大学
社会的知性を備えた卓越した若手研究者育成

事業概要

HOME > 事業概要

山形大学の現状と事業計画

山形大学では、「自然と人間の共生」「地域に根ざし世界を目指す」をリーディング・コンセプトとして、地域社会と一体となった教育プログラムの実施など地方総合大学としてユニークな教育研究活動を展開してきた。研究に関しては、文部科学省グローバルCOE拠点「分子疫学の国際教育研究ネットワークの構築」、科学研究費補助金特別推進研究「大型偏極ターゲットを用いたハドロン・クォーク・グルーオン構造の研究(COMPASS国際共同研究)」及び「有機エレクトロニクス研究拠点」など世界的な研究拠点が形成されつつある。特に、有機エレクトロニクス研究拠点は、全国でも例のない、山形県が県費を投入し推進している「有機エレクトロニクスバレー構想」の中核的研究拠点であり、これまで文部科学省都市エリア産業官連携促進事業、NEDOの国家プロジェクト研究などの研究資金を獲得し、この分野で世界をリードする研究が展開されている。

若手研究者の育成に関する取り組みとして、学長自ら推進する船越プラン(山形大学アクションプラン)の策定・実施により、若手教員に対する研究費支援、アドバイザー制度による支援等を実施している。

振興調整費

文部科学省科学技術振興調整費
「若手研究者の自立的研究環境整備促進」プログラム

基本理念

「自然と人間の共生」
「地域に根ざし世界を目指す」

有機デバイス研究拠点

山形大学大学院理工学研究科
材料化学と電子工学、機械工学が創造的な連携を
繰り返す極めて実践的な学際領域

有機ELを核とした国際的に通用する研究の推進

本事業で育成すべき若手リーダーの人物像

- ・将来を見据え新領域を開拓するフロンティア・スピリットを持つ
- ・同僚研究者、スタッフを共鳴鼓舞できる
- ・チェンジ・マインド(変革し続ける組織を牽引する先導的思考)を持つ

多士済々な若手研究者が集積するユニークな世界的研究拠点を目指す

▲ ページの先頭へ戻る

1

若手研究者育成の構想

本事業をテニユア・トラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。国際公募により教員を公募し、任期制を導入する。国際的な競争下で新領域の開拓ができ、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。具体的には、国際公募によって9名の特任助教を採用する。本プログラムの3年目と終了時に研究・教育・マネジメント能力の評価結果を基に審査し、テニユア・ポストとして准教授9名を採用する。研究環境整備育成のための取組みとして、スタートアップ資金・研究費の配分、アカデミック・アシスタントの配置等を行う。特任助教1名は大学独自の取組として進める。また、研究実践能力向上、教育技術力向上、マネジメント能力の向上を促す各種取り組みにより自立支援を行う。機関全体としての将来的な構想「テニユア・トラックプログラム推進会議」を常設化し、育成プログラムを継続実施する。

本プログラムでは、理工学研究科をパイロットモデルとして「テニユア・トラック推進特区」に選定し、テニユア・トラック制度を基本とする若手研究者育成プログラムを実施することにより、全学への普及を目指す。有機エレクトロニクス研究拠点の中核をなす大学院理工学研究科有機デバイス専攻がめざす「有機デバイス工学」という分野は、材料化学と電子工学、機械工学が創造的な連携を繰り返す極めて実践的な学際領域であり、産業との関わりも強いものづくり技術経営との融合も重要である。本分野は、有機EL、有機トランジスタ、有機太陽電池など、将来の新しい電子産業の創出に多大に寄与するものであり、本分野の実学としての社会的重要性は極めて高い。この分野をモデルの中核とすることにより、既存分野の先進領域開拓に加え、高効率太陽光発電材料・素子、ロボティクス、バイオ、その他の学問分野における融合領域の新分野の開拓や、複数分野の学際的有機的融合のための突破口に示唆を与える若手研究者の育成方法の開発が期待できる。

テニユア・トラックプログラム(TTP)推進室

◆国際会議の運営参画
◆SQ能力開発
◆経営協議会等の開催

社会的知性(SQ)
能力育成

◆研究環境インフラ整備
◆研究教育体制の整備

育成環境支援

テニユア・トラック推進特区

特任助教 9名(うち自主取組1名)

○スタートアップ資金支援(1-2年目)
○アカデミック・アシスタント支援 1名

○研究費支援(3-5年目)
○メンター教員(各1名)によるメンタリング

○研究スペース支援

教育能力の向上

◆英語による大学院講義FD
◆大学院学生指導

教育研究能力育成

研究能力の向上

◆競争的資金獲得FDの実施
◆研究者倫理教育プログラム
◆産学連携スキル支援

理工学研究科「有機デバイス工学を中核とするものづくり研究拠点」

▲ ページの先頭へ戻る

2

ミッションステートメント

(1) 人材養成システム改革構想の概要 本プログラムでは、理工学研究科を「テニミュ・トラック推進特区」に選定し、国際公募により教員を公募し、任期制を導入する。本事業をテニミュ・トラック制度導入のパイロットプログラムと位置づけ、事業終了後全学展開を目指す。この中で、国際的な競争環境の下、将来を見据え新領域を開拓するフロンティアスピリットを持ち、卓越した社会的知性(Social Intelligence quotient: SIQ)能力を駆使して同僚研究者・スタッフを共鳴鼓舞させ研究チームを強力なリーダーシップで牽引していく、チェンジマインドを持った若手リーダーを育成する。これを実現することにより、多岐多様な若手研究者が集積するユニークな世界的研究拠点を目指す。プログラムの円滑な実施を図るためプログラムオフィサーを、教育・研究・マネジメント能力向上のため、シニアメンター、SIQトレーニングコーチを配置する。

(2) 3年目標時における具体的な目標 ①チェンジマインドを持った若手リーダーの育成、先端融合分野に挑戦する研究意欲や能力、高度な研究者倫理意識を高めるとともに、競争的資金獲得スキル、産学連携実践スキル及び知的財産管理に関する知識の獲得・向上を図る。希望者には短期の海外研究武者修行の機会を与える。シニアメンター及びメンター教員による研究能力開発サポートシステムを構築し、研究の実践能力の向上に努める。②英語による大学院講義の授業実施による教育技術力の向上：大学院専門科目講義の授業実践FDを実施し、担当教員及び受講院生の評価を受け、授業改善方法など教育技術力を向上させる。③卓越した研究チームリーダーとしてのマネジメント能力の向上：SIQ能力開発や国際会議の運営参加、経営協議会等諸会議の出席による気づきを通じ、マネジメント能力を向上させる。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標 ①教育能力・研究能力・マネジメント能力の向上の成果を公表する。特に、SIQ能力開発については、高い研究業績を生む手法、その獲得プロセスの内容等を明らかにする。②学協会シンポジウム、国際会議の企画運営に参画する。③テニミュ・ポストに就職する(実施期間終了時5名、8年度目までに9名)。④終了時、本プログラムによって形成・検証されたテニミュ・トラック制度等プログラムの活動・成果を内外に情報発信する。

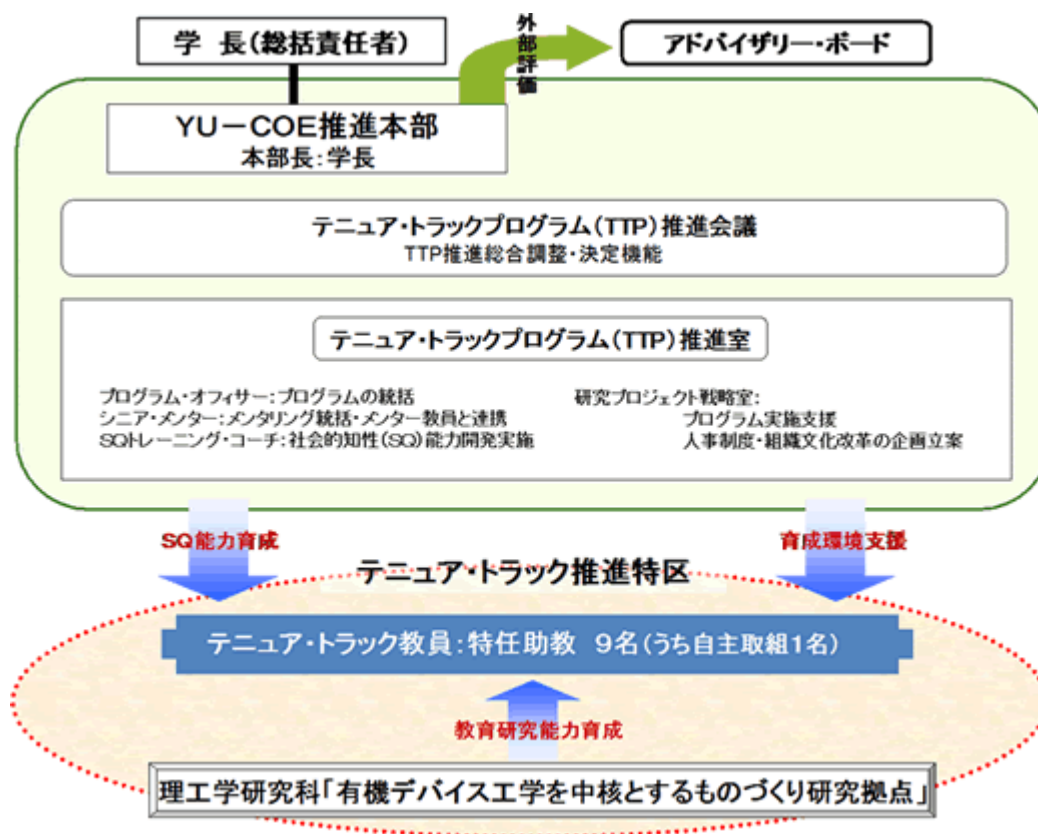
(4) 実施期間終了後の取組 実施期間終了後も、テニミュ・トラックプログラム(TTP)推進会議を常設化し、育成プログラムを継続実施し、変革し続ける仕組みを内蔵する経営マネジメントを展開する。なお、運用財源は、運営費交付金や各種競争的資金によって充当する。

(5) 期待される波及効果 社会的知性(SIQ)能力開発をその育成内容のひとつとしつつ、研究能力、教育能力及びマネジメント能力の向上を同時に実現しようとする本学のチャレンジは、若手人材養成システム改革の流れを変え、新規性かつ汎用性のある取組として、先導的な役割を果たす。

▲ページの先頭へ戻る

3

Copyright(c) Yamagata University. All Rights Reserved.



(出典：本学ホームページ)

資料 2-5-1 機器分析センターにおける共同利用機器一覧

共同利用機器一覧

機種名	装置場所
高感度加速器質量分析装置(AMS)	総合研究所
透過型電子顕微鏡	医学部(実験実習機器センター)
走査型電子顕微鏡	医学部(実験実習機器センター)
共焦点レーザ顕微鏡	医学部(実験実習機器センター)
冷却CCDカメラ付・倒立蛍光顕微鏡	医学部(実験実習機器センター)
遺伝子解析装置	医学部(実験実習機器センター)
遺伝子解析装置	医学部(実験実習機器センター)
高速液体クロマトグラフィー	医学部(実験実習機器センター)
イメージアナライザー	医学部(実験実習機器センター)
分光蛍光光度計	医学部(実験実習機器センター)
蛍光マイクロプレートリーダー	医学部(実験実習機器センター)
超遠心機	医学部(実験実習機器センター)
小型超遠心機	医学部(実験実習機器センター)
PCR産物定量装置	医学部(実験実習機器センター)
細胞解析分取装置	医学部(実験実習機器センター)
細胞解析装置	医学部(実験実習機器センター)
細胞解析装置	医学部(実験実習機器センター)
恒温振とう培養機	医学部(実験実習機器センター)
レーザーマイクロダイセクションシステム	医学部(実験実習機器センター)
超高分解能電界放出形透過電子顕微鏡 TEM	工学部(国際事業化研究センター)
電界放射形走査電子顕微鏡 SEM	工学部(国際事業化研究センター)
X線回折装置 XRD	工学部(国際事業化研究センター)
走査型電子顕微鏡 SEM	工学部(1号館)
X線回折システム XRD	工学部(9号館)
恒温装置付き万能試験装置	工学部(国際事業化研究センター)
フーリエ変換赤外分光光度計	工学部(2号館)
ミニテストプレス	工学部(国際事業化研究センター)
一軸押出機	工学部(国際事業化研究センター)
環境負荷軽減物質成分分析システム	農学部(1号館)
農業用ロボット実験システム	農学部(1号館)
N・C安定同位体比測定用質量分析システム	農学部(1号館)
高性能質量分析装置	農学部(2号館)
核磁気共鳴装置	農学部(3号館)
栽培環境条件設定装置	農学部(3号館)
微量成分解析装置	農学部(3号館)
質量分析装置	農学部(3号館)
遺伝情報解析装置	農学部(3号館)

(出典：事務局資料)



【総合研究所に設置した高感度加速器質量分析装置】

資料 2-6-1 研究成果の公開

 山西大学 Shanxi University	所属学域(所属部局等)に基づいて分類)		
山西大学研究者 情報	<table border="1"> <tr> <th>学 域 名 称</th></tr> <tr> <td> 山西大学 理事(副学長) 人文学部 地域教育文化学部 理学部 医学部 工学部 農学部 大学院医学系研究科 大学院理工学研究科 大学院教育実践研究科 医学部附属病院 基礎教育院 保健管理センター 研究プロジェクト戦略室 評価分析室 エンゲージメント・マネジメント室 大学連携推進室 男女共同参画推進室 教育企画室 </td></tr> </table>	学 域 名 称	山西大学 理事(副学長) 人文学部 地域教育文化学部 理学部 医学部 工学部 農学部 大学院医学系研究科 大学院理工学研究科 大学院教育実践研究科 医学部附属病院 基礎教育院 保健管理センター 研究プロジェクト戦略室 評価分析室 エンゲージメント・マネジメント室 大学連携推進室 男女共同参画推進室 教育企画室
学 域 名 称			
山西大学 理事(副学長) 人文学部 地域教育文化学部 理学部 医学部 工学部 農学部 大学院医学系研究科 大学院理工学研究科 大学院教育実践研究科 医学部附属病院 基礎教育院 保健管理センター 研究プロジェクト戦略室 評価分析室 エンゲージメント・マネジメント室 大学連携推進室 男女共同参画推進室 教育企画室			
所属学域			
専門分野検索			
キーワード検索			
名前検索			
山西大学研究者情 報は、本学の研究 者情報を広く社会 に紹介するもので す。			
なお、各項目とも情 報公開に同意して いない研究者に對 しては、当該項目 を公開しておりませ ん。			



キーワード検索

検索 クリア

- スペースで区切って複数のキーワードを入力できます。
- タイトルをクリックすると配布資料の詳細が表示されます。

学長定例記者会見配布資料

○配布資料を見るためには、ソフト(Acrobat Reader)が必要ですが、[こちら](#)からダウンロードできます。
 ○資料の中の赤い点線で囲まれた部分を左クリックすると、更に詳細な資料が表示されます。

- 平成22年 6月 8日(火)
- 平成22年 5月25日(火)
- 平成22年 4月28日(水)
- 平成22年 4月6日(火)
- 平成22年 3月24日(水)
- 平成22年 3月 2日(火)
- 平成22年 2月16日(火)

(出典：本学ホームページ)


 関西大学
 Kansai University of International Studies
かんきんバズリボジトリ
 ホーム カンキンバズリボジトリ 国英の用語・確認 Help English かんきんバズリボジトリ

検索
山形大学
資料数: 0

☒ **検索**

詳細検索

一貫表示

一覧表示

条件追加

実行(件数:0)

NDC

ダウンロードリンク先

山形大学

所在地: 山形県、学舎名: 山形大学



所属内からアイテムを一覧表示する

所属内アイテムを検索する :

詳細検索

所属一覧

- 全一覧
- 山形大学 [216]
- 独立行政法人NPO
- [108]
- 山形県立生涯学習センター
- [178]
- 東北工科大学
- [114]
- 山形県立中央看護専門学校
- [114]
- 東北文化学園大学 [22]
- 山形県立短期大学
- [11]
- 山形県立産業技術専門学院
- [89]
- 山形県立産業技術短期大学校
- [106]

- **人文学部**
 - 人文学部・紀要論文 [204]
 - 人文学部・学芸論文 [5]
 - 人文学部・研究報告書 [21]
 - 人文学部・雑誌記事 [11]
 - 人文学部・学位記 [7]
 - 人文学部・その他 [7]
 - **人文学部・総括論文**
 - 人文学部卒業生・准人文学部員集 [43]
 - 山形大学卒業論議 [95]
 - 山形大学卒業論文選 [10]
 - 山形大学大学院社会システム研究院紀要 [50]
 - 人文学部・研究論文・その他 [4]
- **地域教育文化学部**
 - 地域教育文化学部・雑誌論文 [19]
 - 地域教育文化学部・学芸論文 [50]
 - 地域教育文化学部・学位論文 [3]
 - 地域教育文化学部・研究報告書 [1]
- **理学部**
 - 理学部・紀要論文 [28]
 - 理学部・学位論文 [8]
 - 理学部・研究報告書 [5]
 - **理学部・総括論文**
 - 山形大学理学部基礎課程高度実習班 [159]
 - 理学部卒論選 [20]
 - 理学部・研究論文・その他 [2]
- **医学部**
 - 医学部・雑誌論文 [90]
 - 医学部・学芸論文 [13]
 - 医学部・研究報告書 [0]

- **工学部**
 - 工学部：機械論文 [6]
 - 工学部：物理論文 [64]
 - 工学部：化学論文 [27]
 - 工学部：研究報告書 [5]
- **農学部**
 - 農学部：機械論文 [46]
 - 農学部：物理論文 [44]
 - 農学部：化学論文 [44]
 - 農学部：生物論文 [1]
 - 農学部：図書 [1]
- **国際センター(国際教育院)**
 - 国際センター：英語論文 [5]
- **高等教育研究センター**
 - 山形大学高等教育研究センター [26]
- **附属図書館**
 - 附属図書館 [81]
 - 農・工・理・農産物誌 [11]
 - 附属図書館：非書資料 [42]
 - 附属図書館：機械論文 [1]
 - **貴重資料**
 - 島田家文庫・和書 [146]
 - 島田家文庫 [203]
 - 上田家文庫 [3]
- **附属博物館**
 - 総合的知識・三島半農漁物産創造施設 [6]
- **パ・ナール研究所**
 - 附属生命科学研究所 [1]

この部分は著作権の
関係で掲載できませ
ん。



【山形大学出版会から刊行】

資料２－７－１ １学部・部門１プロジェクト

１学部・部門１プロジェクト

(平成２０年度実施分)

番号	部局等名	プロジェクトの名称
１	地域教育文化学部	地域連携を基盤にした教育文化支援プロジェクト
２	理学部	理学部サイエンスネットワーク構築プロジェクト
３	医学部	医療安全の確保に向けた看護実践能力強化のための看護技術自主トレーニングシステムの構築
４	工学部	地域ものづくりクラスターにおける企業後継者を対象とした経営管理実践ＭＯＴプログラムの開発
５	医学部附属病院	院内がん登録データベースの構築
６	地域共同研究センター	産学連携業務における革新的標準化のための総合的知識化システムの構築
７	遺伝子実験施設	先端技術支援による山形大学生命科学研究推進プロジェクト

(平成２１年度実施分)

番号	部局等名	プロジェクトの名称
１	地域教育文化学部	地域連携を基盤にした教育文化支援プロジェクト
２	理学部	理学部サイエンスネットワーク構築プロジェクト
３	医学部	医療安全の確保に向けた看護実践能力強化のための看護技術自主トレーニングシステムの構築
４	遺伝子実験施設	先端技術支援による山形大学生命科学研究推進プロジェクト
５	附属病院	院内がん登録データベースの構築

(出典：事務局資料)



ご利用案内

小学生から大人までの全層民体型の科学実験教室を行い、科学的思考能力を備えた将来の山形、日本を支える人材育成を目的とするのが「やまがた未来科学プロジェクト」です。山形県内の高等教育機関連合大学共同コンソーシアムやまがたの協力ののもと山形大学が中心となって進めていくプロジェクトです。その柱となるのが山形大学理学部1号館に隣接して建設されたSCITAセンターです。皆さんのアイデアで新しい実験教室やサイエンスカフェなどを企画開発します。

ぜひ、SCITAセンターでの企画への参加、展示物や実験教材をご利用いただき科学の面白さを体験してください。

なお、プロジェクトの進行にあたり、財団法人新技術振興推進財団近畿会からの研究助成を受けております。

SCITAセンター事務局
山形大学理学部1号館近畿会 栗山 恭彦

SCITA ラボ(みんなの実験室)

広さ約100㎡収容人数約30名、3階の150㎡の実験室は72時間常時利用可能。最新の科学実験が体験できる。大型スクリーンが備え、遠隔プロジェクター・3Dのモニター・カメラ・マイク・照明・音響設備が整った環境が整っています。科学的な実験・観察・測定・データ分析・1人1台、最新型タブレット端末約100台の150㎡の実験室、広さ約150㎡の実験室。

本格的な実験・観察・測定・データ分析・1人1台、最新型タブレット端末約100台、150㎡の実験室、広さ約150㎡の実験室。



200名以内の集まり
実験室は、72時間常時利用可能
1人1台のタブレット端末約100台
大型スクリーンが備え、遠隔プロジェクター・3Dのモニター・カメラ・マイク・照明・音響設備が整った環境が整っています。

ミーティングルーム

広さ約60㎡収容人数約30名、大広間です。実験・観察・測定・データ分析・1人1台、最新型タブレット端末約100台、150㎡の実験室、広さ約150㎡の実験室。

実験・観察・測定・データ分析・1人1台、最新型タブレット端末約100台、150㎡の実験室、広さ約150㎡の実験室。





準備室

広さ約40㎡、実験・観察・測定・データ分析・1人1台、最新型タブレット端末約100台、150㎡の実験室、広さ約150㎡の実験室。



(出典：SCITAセンターパンフレット)



Yamagata
Astronomical
Observatory



やまがた
天文台

[天文会への案内\(地図など\)](#)

やまがた天文台(山形天文台, Yamagata Astronomical Observatory: YAO)とは、
 山形大学理学部と NPO法人山形天文学会が協同して運営する市民のための天文台です。
 一般公開時は星空広場と天文・宇宙を語るガイダンスを行います。
 きれいな星空、神秘的宇宙を見て、感じて、お楽しみください！

→お知らせは白紙掲載できます。ガイダンスや天文台に入ることもできます！[「天文台」はこちら](#)

今週の星空案内人®

★月夜はひとしずく★
 11月18日(土)
 川原さん

空・満月と土曜日の夜明けに耳かきで夢中した！今は、星空の案内人向けな(森の)案内人として活動中です。
 パラソルに傘の影・月影が、みなさまを夢遊する空へとご案内いたします！

千原さん

ほんのちょっとした知識が、あなたの心を豊かにします。
 それが、夏の知識なら、暑はいづつでも、あなたの夏に輝いていきます。

「星のソムリエ®」
「星空案内人®」

は山形大学の登録商標であり、
 星空案内人資格認定制度に基づく
 資格の名称です。

★天文会一般公開

西の空に輝く金星！

夕方から夜7時過ぎまで金星の西空にとても明るく輝いてい
 るのが星です。
 ながからい月の明とともて有るぞね

お知らせ

●ゆかたで天文台のお知らせ

2010年7月3日(土)の天文台一般公開は「ゆかたで天文
 台」開催します。
 山形大学で準備された方はガイダンス→料金も無
 料！
 朝10時と夕暮後や四谷山天文堂シアター、短冊に願い事
 を書いて数えるゲームも用意します。
 併し入れに就いては浴衣を引っ掛け出して天文台に付く
 こと！
 詳しくはこちら(PDF形式：1.07MB)

この部分は著作権の関係で
掲載できません。

資料３－２－１ 地域共同研究センターにおける取組

「第6回もがみイブニングサロン
with第38回最上夜学」開催のお知らせ

平成15年4月、最上総合支庁内に山形大学国際事業化研究センター（旧：山形大学地域共同研究センター）最上サテライトが設置されたのを機に、産学官連携のきっかけ作りの場として、「最上夜学」を開催しています。このたびの「最上夜学」は「食農の匠フォーラム」並びに「第6回もがみイブニングサロン」と合同で下記のとおり開催いたします。

ぜひお問い合わせのうえ、多くのご参加をお待ちしております。

1. 日時 平成21年12月4日（金）15：00から
2. 場所 「大地会館」
（新庄市沖の町 / 電話 0233-23-1151）
3. 内容
 - (1) 食農の匠フォーラム in 新庄（15：00～17：40）
 - 1) 農業分野でのサプライチェーン・マネジメントシステムの構築と活用
藤田武広 氏（マクタアメニティ㈱・代表取締役）
 - 2) パネルディスカッション「最上の農業への提案」（仮）
・コーディネーター 野田博行 氏（山形大学大学院理工学研究科 准教授）
・パネラー 藤田武広 氏（マクタアメニティ（株）・代表取締役）
矢野和男 氏（最上総合支庁 農業技術普及課長）
栗田幸秀 氏（㈱ワーム農業研究所）
 - 3) 科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムについて
宮岸 明 氏
（科学技術振興機構科学技術振興調整費業務室 主任調査員）
 - (2) 第6回もがみイブニングサロンwith第38回最上夜学（18：00～20：00）
 - 1) 環境環境技術研究所の取組発表（イブニングサロン）
広報担当 森 勇人 氏
【コーディネーター】 山形大学工学部 教授 野長瀬 裕二 氏
ビジネスコーディネーター協会などの創設者、日本ベンチャー学会（理事）、ビジネス
コーディネーター協会（統括幹事）、早稲田大学アントレプレヌール研究会（理事）、
新都市イブニングサロン（世話役）、新都市イノベーションパートナーズ（理事長）
 - 2) 「味覚センサーの活用について」（最上夜学）
山形大学大学院理工学研究科 准教授 野田博行 氏
 - 3) 山形大学MOT生の取組発表（現在の取組みと自社アピール）
・荒木美成（㈱織の起・㈱オークファーム）
・栗田幸秀（㈱ワールド・ワーム・コミュニケーション・
（有）ワーム農業研究所）
・高橋健一（㈱三和食品）
・梁瀬悦子（㈱新庄丸果青果・（有）食彩舟形工房）
 - 4) 交流会（講師及び参加者間の情報交換）
4. 対象 企業、関係団体、行政など（「食産業」、「産学連携」等に関心のある方ならどなたでも）
5. 参加費 交流会参加者 3,000円
（注：今回はイブニングサロンと合同のため、ワンコインではありません）
6. 申込方法 12月2日（水）まで、別紙「[出席連絡表](#)」によりFAXにてお申込みください。
7. その他 取組み発表に引き続き、「交流会」を開催します。ぜひご参加ください。

（出典：本学ホームページ）

山形県内各地域における受託研究・共同研究について

（平成20年度）

県内地域	受託研究	共同研究
村山地域（山形市・天童市など）	18件	11件
置賜地域（米沢市など）	9件	5件
庄内地域（鶴岡市・酒田市など）	7件	2件
最上地域（新庄市など）	4件	2件
合 計	38件	20件

（平成21年度）

県内地域	受託研究	共同研究
村山地域（山形市・天童市など）	16件	12件
置賜地域（米沢市など）	15件	4件
庄内地域（鶴岡市・酒田市など）	12件	6件
最上地域（新庄市など）	2件	2件
合 計	45件	24件

（出典：事務局資料）

資料 3-3-1 国際シンポジウム

この部分は著作権の関係で掲載できません。

【グローバルCOEプログラム国際シンポジウム（平成21年11月6日～7日開催）】

資料 3-4-1 学術交流協定一覧

学術交流協定一覧（平成20・21年度）

◇大学間交流協定

国 名	機 関 名	締結年度
ベトナム	ハノイ農業大学	平成20年度
大韓民国	忠北大学校	平成20年度
ブルネイ	ブルネイダルサラーム大学	平成20年度
スイス	ヨーロッパ原子核研究機構（CERN）	平成20年度
ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年度
中華人民共和国	哈爾濱工業大学	平成20年度
ベトナム	ハノイ国家大学自然科学大学	平成20年度
タイ	コンケン大学	平成20年度
アメリカ合衆国	オクラホマ大学	平成20年度
中華人民共和国	北京林業大学	平成20年度
チェコ	トーマスバタ大学	平成20年度
オランダ	ライデン大学	平成21年度
中華人民共和国	青島農業大学	平成21年度
ボリビア	サンアンドレス大学	平成21年度
イギリス	マンチェスター大学人文科学学部	平成21年度
大韓民国	全南大学校	平成21年度
15大学1機関		

（出典：事務局資料）

資料 3-5-1 海外拠点の設置

この部分は著作権の関係で掲載できません。

【ハノイ分室】

この部分は著作権の関係で掲載できません。

【ハルビン分室】